

JobCenter

R12.7
＜インストールガイド＞

- Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、The Open Group が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
- SAP, R/3, BW は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
- AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
- NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、JobCenter のインストールやバージョンアップ方法などについて説明することを目的としています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

• 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ 本書をお読みください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

• 凡例

本書内での凡例を紹介します。



: 気をつけて読んでいただきたい内容です。

注 : 本文中につけた注の説明

備考 : 本文中の補足説明

— : UNIX 版のインストール画面の説明では、__部分（下線部分）はキーボードからの入力を示します。

• 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、**JobCenter 製品サイトのダウンロードのページ**を参照してください。

URL : <http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概 要
JobCenter インストールガイド	本書
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用する方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。

• 改版履歴

版 数	変更日付	項 目	形 式	変更内容
1	2008/04/28	新規作成	—	第 1 版
2	2008/05/15	追加	—	「2.1.1 注意事項の事前確認」 UNICODE 環境の場合の注意事項に追記
3	2008/05/22	修正	—	「2.4.4 AIX 版」のコマンド例を修正
4	2008/07/31	修正	—	R12.7.1 リリースにともない「2.4 JobCenter MG/SV をインストールする」のバージョン表 記部分を修正 「2.4.4 AIX 版」にインストール時の注意事項 を追記
5	2008/11/20	追加	—	「2.4.5 Windows 版」の Windows Server 2008(IPF)環境でのインストールに関して注意 事項を追加
6	2011/07/15	修正	—	誤記を複数修正、注意事項等の説明を補足

目 次

1.	JobCenterの動作環境	7
2.	インストール	8
2.1	インストールの準備をする	9
2.1.1	注意事項の事前確認	9
2.1.2	ネットワークを設定する	17
2.1.3	ホストIDを割り当てる	19
2.2	LicenseManagerをインストールする	20
2.2.1	HP-UX版	20
2.2.2	Solaris版	22
2.2.3	Linux版	24
2.2.4	AIX版	25
2.2.5	Windows版	26
2.3	コードワードを登録する	30
2.3.1	コードワードの登録作業	30
2.3.2	LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ	31
2.4	JobCenter MG/SVをインストールする	33
2.4.1	HP-UX版	33
2.4.2	Solaris版	34
2.4.3	Linux版	35
2.4.4	AIX版	37
2.4.5	Windows版	38
2.5	JobCenter CL/Winをインストールする	49
2.5.1	インストールの開始	49
2.5.2	セットアップ画面	49
3.	実行環境のセットアップ (UNIX版) ...	53

4. アンインストール・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

4.1 LicenseManagerをアンインストールする	61
4.1.1 UNIX版	61
4.1.2 Windows版	63
4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする	64
4.2.1 UNIX版	64
4.2.2 Windows版	66
4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする	68
4.3.1 パッケージをアンインストールする	68
4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する	68

5. バージョンアップ・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

5.1 UNIX版	70
5.1.1 バージョンアップ	71
5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ	71
5.2 Windows版	72
5.2.1 バージョンアップ	73
5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ	74

6. バージョンの確認方法・・・・・・・・・・・・ 76

6.1 UNIX版	77
6.1.1 JobCenter MG/SV	77
6.2 Windows版	78
6.2.1 JobCenter SV	78
6.2.2 CL/Win	79

索引・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

1. JobCenterの動作環境

JobCenter の動作環境および対応 OS につきましては、リリースメモの「動作環境」を参照してください。

2. インストール

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のインストール方法を説明します。次の手順に従って作業を行ってください。

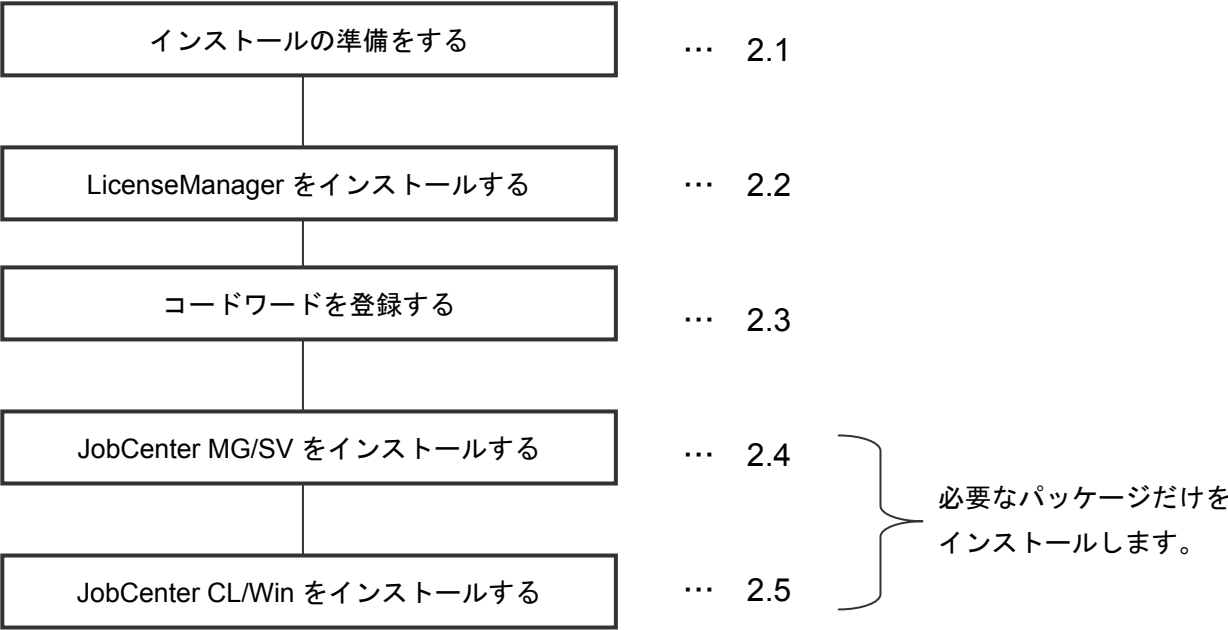


図 2-1 インストールの流れ

- 2.1 インストールの準備をする
- 2.2 LicenseManagerをインストールする
- 2.3 コードワードを登録する
- 2.4 JobCenter MG/SVをインストールする
- 2.5 JobCenter CL/Winをインストールする

2.1 インストールの準備をする

インストールを開始する前に必要な設定を行います。

- 2.1.1 注意事項の事前確認
- 2.1.2 ネットワークを設定する
- 2.1.3 ホストIDを割り当てる

2.1.1 注意事項の事前確認

- UNIX の場合の注意事項

- JobCenter において” CommonJNW” というユーザ名は使用できません。また、ホスト名と同じユーザ名は使用できません。
- LDAP 連携は直接サポートしていません。ただし LDAP サーバのパスワード暗号化方式が crypt で、かつ OS のライブラリ関数 getpwnam()または getpwent()で通常の/etc/passwd による管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。
- HP-UX の SMSE (Standard Mode Security Extensions) のようにユーザごとにアクセス制御が設定されている環境を直接サポートしていません。ただし JobCenter は getpwnam() または getpwent() で通常の/etc/passwd による管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。
その場合、SMSE 環境において提供されるアカウントロック等のセキュリティ機能に対応していませんので、CL/Win で MG/SV にログイン/接続する際のパスワード認証の失敗回数のカウントや、ログイン失敗の記録は行われません。
- インストールディレクトリのパーミッションについては、755 のアクセス権が必要になります。従ってインストール時の root ユーザの umask の値が 755 のアクセス権をマスクしないようにする必要があります。
- JobCenter の NQS 設定でグループに対するキューアクセス制限等を設定する場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、グループ名と gid も統一する必要があります。
- クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenter を利用する全てのアカウント名とその uid を統一する必要があります。
統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。
- JobCenter インストールディレクトリ配下の各初期化ファイルを、マニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。

- Windows の場合の注意事項

- JobCenter で使用するディスク領域は(ローカル・クラスタサイト共)NTFS でフォーマットされている必要があります(FAT32 は不可)。
なお NTFS ファイルシステムは「8.3 short file name」の自動作成を OFF にしないと 1 フォルダへの大量ファイル (約 1 万～) 作成時にパフォーマンスが極端に落ちます。
短時間に大量のトラッカを生成したり巨大なジョブネットワークを作成して投入する環境では、OS の fsutil behavior コマンドによる無効化(fsutil behavior set disable8dot3 1)が必要になる場合があります。
- JobCenter はマルチプラットフォーム連携製品のため、先頭に数字をもつホスト名は使用できません。また 1 文字のホスト名はドライブ名として解釈されるのでインストールできません。
- JobCenter において"CommonJNW"というユーザ名は使用できません。また、コンピュータ名と同じユーザ名は使用できません。
- JobCenter で使用できるユーザ名の最大長は 15 バイトです。また、ユーザ名に漢字は使用できません。
- LDAP 連携は直接サポートしていません。ただし LDAP サーバのパスワード暗号化方式が crypt で、かつ ActiveDirectory 側で LDAP 連携環境が整っていてドメインユーザとして認証できるのであれば、区別せず一般のドメインユーザとして扱うことは可能です。
- JobCenter 管理者として指定するアカウントは、事前にローカルマシンの Administrators グループに所属している必要があります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- ドメイン環境において JobCenter 管理者としてローカルユーザを選択する場合は、JobCenter で利用できる全てのユーザはローカルユーザのみとなります。
JobCenter 管理者をドメインユーザとした場合はローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。
- ドメイン環境において JobCenter 管理者としてドメインユーザを選択した場合、JobCenter のセットアップ時にローカルサービスが起動する際、または CL/Win で新規ドメインユーザで MG/SV に接続する際に、最初の 1 回目はドメインサーバ(PDC または BDC)にネットワーク的にアクセスできる状態であることが必要です。
もし PDC または BDC にアクセスできなかった場合、アカウント認証できないためサービス起動や CL/Win 接続に失敗します。
- JobCenter を利用するアカウントはローカルの JobCenter グループに所属することになりますが、同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザを同時に JobCenter グループに

所属させることはできません。(いずれか一方のみ利用可能)

もし同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザが同時に JobCenter グループに所属した場合、JobCenter が正常に動作しなくなる可能性があります。

- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。
- ドメイン環境では DNS が必要となりますが、DNS サーバと通信できなくなった状態では JobCenter が名前解決できず正しく停止処理を行えなくなりますので、hosts ファイル(もしくは JobCenter 側に設置する resolv.def ファイル)も設定して、名前解決できることを保証しておく必要があります。
- インストールするマシンが参加するネットワークがスパニングツリーで運用されている場合、NIC のリンクアップのタイミングが遅くなるため、マシン起動時に JobCenter がライセンスされている IP アドレスを確認できず、自動サービス起動に失敗する場合があります。
その場合は「JobCenter 環境構築ガイド 5.4 JobCenter の起動時ライセンスチェックについて」に従い、起動時のリトライ設定を行う必要があります。
- JobCenter の使用するディレクトリがウィルススキャンのオンアクセススキャンの対象になっている場合、ジョブの実行が正常に行えない場合があります。
そのため、JobCenter の使用するディレクトリ(インストールディレクトリと<Documents and Settings>ディレクトリ^{注1})をオンアクセススキャンの対象外にしてください。

注 1. Documents and Settings ディレクトリ全体ではなく、JobCenter で利用するユーザの以下のパスをオンアクセススキャンの対象外と設定範囲を絞ることも可能です。

Documents and Settings¥<USER>¥NTUSER.DAT

Documents and Settings¥<USER>¥ntuser.dat.LOG

上記は Windows Server 2003 以前の場合の例です。Windows OS ごとに実装が異なるため、上記に相当するパス/ファイルを環境ごとに確認した上でスキャン対象からはずすようにしてください。

- JobCenter をインストール／運用するためには、Server サービスおよび Windows Management Instrumentation サービスが起動している必要があります。
[スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択し、[services.msc] を実行します。[サービス] ダイアログが表示されますので、Server サービスと Windows Management Instrumentation サービスの状態が「開始」、スタートアップの種類が「自動」であることを確認してください。(デフォルトでは「開始、自動」の設定になっています)
- JobCenter をインストール／運用するためには、JobCenter が使用するネットワークのプロパティで「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」のチェックが ON になっている必要があります。(デフォルトでは ON の設定になっています)
- JobCenter インストールディレクトリや Windows ディレクトリ配下の各初期化ファイル、お

よびレジストリ情報をマニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。

■ 環境変数 temp と tmp について (R12.7.2～のみ)

JobCenter を利用するためには、環境変数 temp と tmp が設定されており、かつ設定されたフォルダが実際に存在している必要があります。



特にローカルサイトの JobCenter サービスはシステムアカウントで動作しますので、TEMP と TMP の参照先が下記のとおり設定されていないと、ユーザーアプリケーションのコマンドが正常に動作しない場合があります。

Windows Server 2008 を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダを作成してください。

<システムドライブ>¥Windows¥system32¥config¥systemprofile¥AppData¥Local¥Temp¥

Windows Server 2003 を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダが存在するか確認し、存在しない場合は作成してください。

<システムドライブ>¥Documents and Settings¥Default User¥Local Settings¥Temp¥

上記のフォルダの作成が困難である場合は、JobCenter とは関連のない任意の場所にフォルダを作成し、環境変数設定ファイルの envvars ファイル中で temp および tmp 環境変数の値として設定してください。

設定例

temp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>

tmp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>

envvars ファイルの詳細については、<環境構築ガイド>の「13.2.3.2 JobCenter SV 側で設定する場合の対処（envvars ファイル）」を参照してください。

● Windows クラスタ環境の注意事項

- クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenter管理者として同じユーザ名でセットアップする必要があります。また、本ガイド「2.4.5 Windows版」の「一般的な注意事項」に記載の通り、当該ノードにおいてローカル管理者権限が必要となります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- JobCenter 管理者以外のユーザについても、クラスタサイトを構成する全てのノードでユーザ名と uid を統一する必要があります。

統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。

ただし Windows OS 標準の機能では、ユーザアカウント作成時に任意の uid を指定することができません。また、uid の変更もできないため、インストール前に調整する必要があります。

ドメイン環境の場合、ドメインユーザの uid はドメイン参加マシン間で一意に決まりますので、クラスタ環境を構築される場合はドメイン環境で構築し、ドメインユーザによる運用をお奨めします。（この場合、JobCenter 管理者もドメインユーザである必要があります。）

- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。

● UNICODE 環境の場合の注意事項

JobCenter を UNICODE 環境でセットアップする場合は、以下の点に注意してください。

- 英語 OS + 英語版 JobCenter または中国語 OS + 中国語版 JobCenter の場合、必ず非 UNICODE(Non-Unicode Mode)を選択してください。UNICODE(Unicode Mode)を選択してインストールした場合、動作保証しておりません。

- 入力/出力に使用できる文字コードについて

ジョブネットワーク名、部品名、コメント、単位ジョブスクリプトなどの入力値

→ JIS90 互換の範囲でのみ入力可能

単位ジョブの標準出力、標準エラー出力

→ JIS2004 で規定される全ての文字が出力可能（CL/Win で表示可能）



JIS2004 で拡張された文字を表示するには、それらを表示可能なフォントパッケージが OS にインストールされている必要があります。



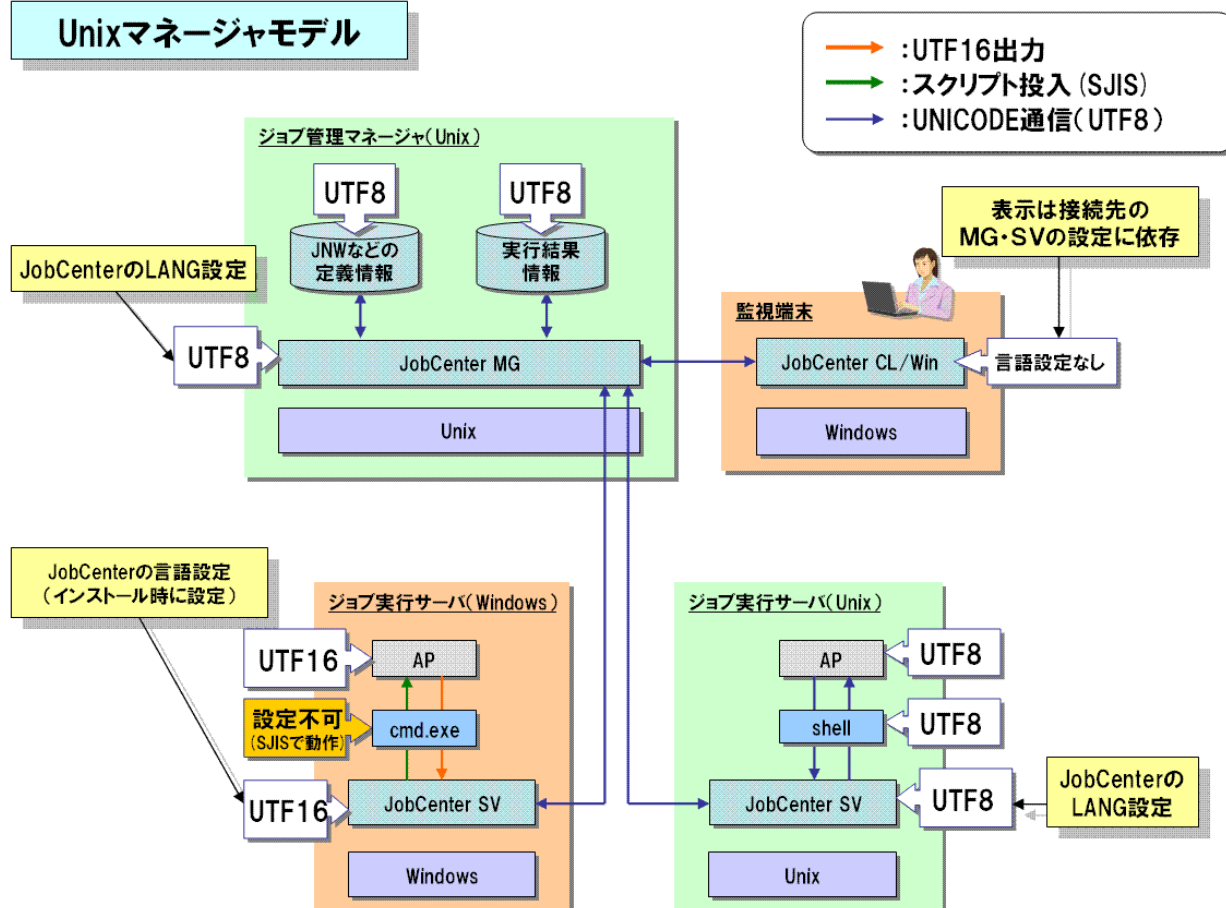
SAP R/3 Option 機能および BW Option 機能を利用する場合は、UNICODE 環境は利用できません。

- UNIX 版と Windows 版の差分について

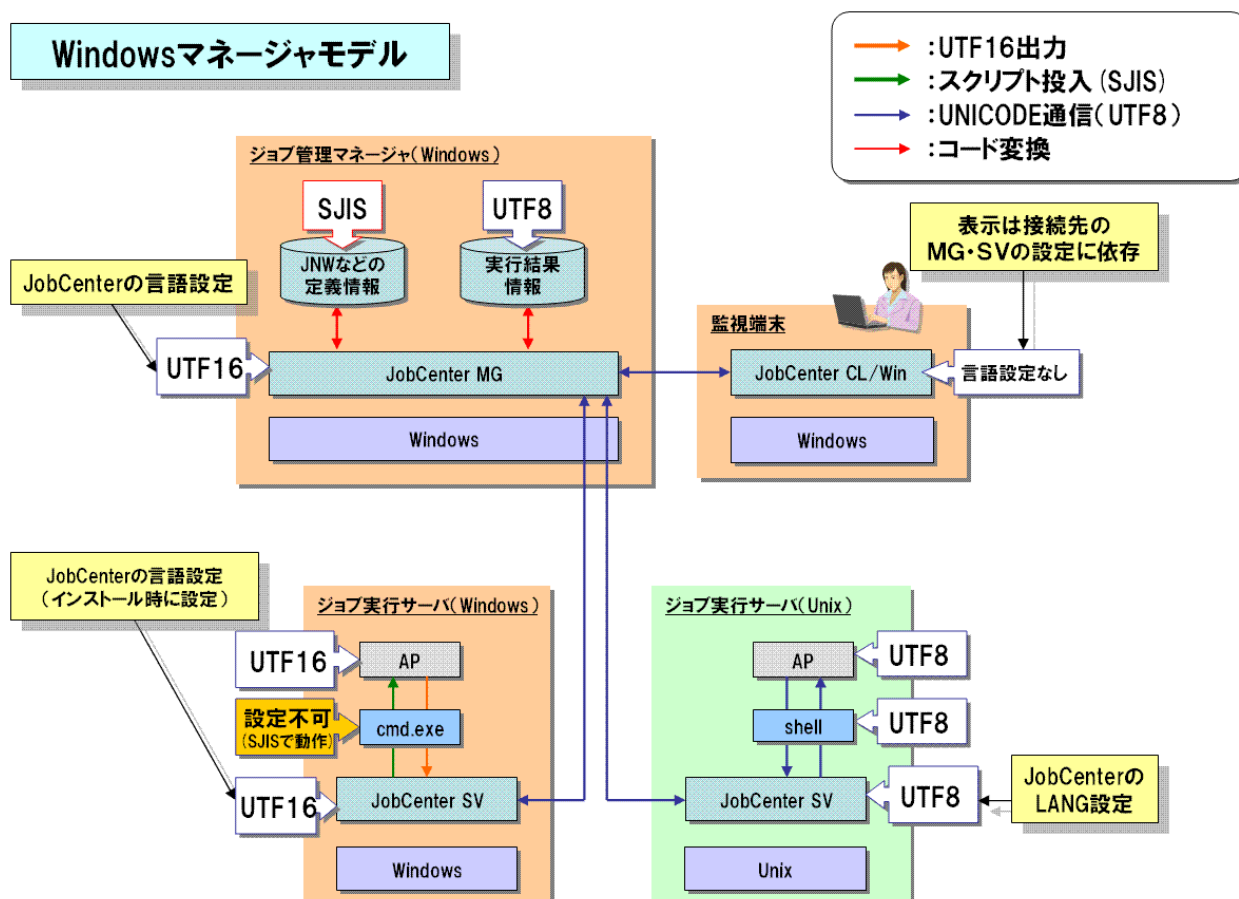
UNIX 版 JobCenter では、ジョブの実行時に LANG が UTF-8 として実行され、ジョブの出力結果も UTF-8 として処理され保存されます。それに対し Windows 版 JobCenter では、コマンド実行シェル (cmd.exe) が SJIS のスクリプトのみの動作となるため、各種ファイルは SJIS で定義されます。ただし、ジョブの実行は UTF-16 として行われ（これは内部的にはコマンドプロンプト上で、/U オプションを使用したのと同じ動作です）、出力結果は UTF16 で出力となりますが、JobCenter がデータとして保存する場合にはこれを UTF-8 に変換して格納します。

以下に UNIX 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルと、Windows 版 JobCenter をマネージャとして構成した場合のモデルを例として示します。

Unixマネージャモデル



Windowsマネージャモデル



■ 接続互換性について

文字コードの差異における下位バージョンとの接続互換性は以下の通りです。

・ MG-SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
～ R12.6.x(SV)	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○
R12.7(SV)	UNICODE	×	×	○	×	×
	EUC	○	○	×	○	○
	SJIS	○	○	×	○	○

・ CL/Win-MG/SV の接続互換性

		～R12.6.x(MG)		R12.7(MG)		
		EUC	SJIS	UNICODE	EUC	SJIS
CL/Win	～R12.6.x	○	○	×	○	○
	R12.7	○	○	○	○	○

 **UNICODE 環境を利用する場合、JobCenter を利用する MG,SV 全てを UNICODE 環境で統一する必要があります。従って、異なる文字コードでセットアップされた他のマシンをマネージャフレームのマシン一覧には追加することはできません。(nmapmgr サブコマンドを使うと追加できますが、動作保証しません。)**

 **UNICODE 同士であっても、UNIX と Windows 間で転送した単位ジョブリクエストは、ジョブネットワーク名や単位ジョブ名に日本語が含まれる場合、qmgr サブコマンドで show long queue で表示するとキュー内ジョブリクエストに表示されるパスが文字化けします。**

■ バージョンアップについて

UNIX 版 JobCenter R12.6 以前をインストール済みの環境において、JobCenter R12.7 にバージョンアップし、文字コードとして UNICODE を選択した場合、既存のジョブネットワークの定義データを引き継ぐことができません。既存の定義データを引き継ぎたい場合は、UNICODE 以外を選択してください。

■ インポート・エクスポート機能について

エクスポートしたデータを、文字コードが異なる環境にはインポートできません。したがって、JobCenter R12.6 以前の環境でエクスポートしたデータを、JobCenter R12.7 の UNICODE 環境にインポートすることはできません。

■ イベント連携について

イベント連携の設定において EVENTIF が SS (デフォルト) の場合、UNICODE 環境では利用できません。

 **SystemManager の場合、プラットフォームによっては UTF-8 のテキストログ監視機能がサポートされているものもあり、連携可能な場合もあります。詳しくは SystemManager のマニュアルをご確認ください。**

■ ログについて

前述のイベントのテキストログ出力や操作・実行ログ、エラーログは、UNIX 版と Windows 版では出力される文字コードが異なりますのでご注意ください。

UNIX 版：セットアップ時の文字コードに依存

Windows 版：常に SJIS

2.1.2 ネットワークを設定する

JobCenter は、TCP/IP ネットワークの設定が正しく行われていることを前提として動作します。マシンの正式ホスト名から IP アドレスを求め、その IP アドレスから得られたホスト名が正式ホスト名に一致していない場合、JobCenter は動作できません。このチェックはドメインの有無まで行いますので、正確に一致するように設定してください。

複数のマシンで JobCenter を運用する場合、すべてのマシンでホスト名や IP アドレスのデータが一致している必要があります。hosts ファイルの更新漏れなどがないように十分に注意してください。

また、CJC オプションを使用しないで複数のネットワークカードが実装されている場合、最も優先されるネットワークカード上で動作します。たとえば、UNIX 環境の場合、hostname コマンドで返却されるホスト名を使って JobCenter は動作します。



UNIX 環境で複数のネットワークカードに対して、同じホスト名や IP アドレスを割り当てられている場合、インストールや初期設定が行えることがありますが、誤動作の原因になりますので、インストールや初期設定は行わないでください。

また、Windows 環境の場合は resolv.def ファイルによる名前解決指定が必要になる場合があります。「JobCenter 環境構築ガイド 2.3 Windows でネットワーク環境を構築する場合」も参照してください。

ネットワークの設定の詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 2. ネットワーク環境構築」を参照してください。

ネットワークを設定する際には、次の事項に注意してください。

- ◆ ホスト名の名前解決において、正引／逆引が行えること。
- ◆ 正引／逆引で、エイリアス名(別名)ではなくホストの正式名が一致すること。
- ◆ 複数のネットワークカードを実装している場合、個々のネットワークカードに一意のホスト名／IP アドレスが割り当てられていること。
- ◆ JobCenter の連携を行うホスト間で、ホスト名／IP アドレスのデータが一致していること。
- ◆ JobCenter がセットアップされるホスト間にファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対して JobCenter が使用するネットワークポートの穴あけ作業をすること。
- ◆ Windows XP Professional (Service Pack 2 以上)、Windows Server 2003 (SP1 以上)、Windows Server 2008 に JobCenter MG/SV をセットアップした場合、Windows ファイアウォールの例外設定を行うこと。特に Windows Server 2008 環境では、デフォルトでファイアウォールの設定が ON になっていますので注意してください。
ファイアウォールの例外設定を行う際のポート番号については、「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。
- ◆ 利用する TCP/IP ポート番号が、他のサービスと競合しないこと。JobCenter で利用するポート番号の設定変更については、「JobCenter 環境構築ガイド 2.1 JobCenter で使用する TCP ポート」を参照してください。



インストール・セットアップ完了後、CL/Win で MG/SV に接続すると、マシン一覧に表示される

マシンアイコンについて、同一マシンが「ホスト名のみ」と「FQDN」の 2 通りでアイコンが 2 個表示される場合があります。これはセットアップやマシングループへのマシン追加の際に、FQDN で認識されるマシンについては自動的にホスト名のみの「エイリアス名」を別名として設定するためです。

エイリアス名はマネージャフレームのマシン一覧表示で運用上の役割で識別したい場合や、nmapmgr や qmgr サブコマンドにおける利便性向上のために利用することができます。(ただし有効範囲は自マシン(サイト)内だけです。通信上の名前解決には使用できません)

エイリアス名が不要な場合は、CL/Win からではなく nmapmgr コマンドで削除することができます。「JobCenter コマンドリファレンス 3.11 nmapmgr (3)サブコマンド」の「Delete Name \$alias」を参照してください。

2.1.3 ホストIDを割り当てる

JobCenter では、インストール時にそのシステム内で一意となるホスト ID を割り当てる必要があります。ホスト ID の範囲は 1～2147483647 です。ホスト ID を割り当てる際には、次の事項に注意してください。

- ◆ 複数のマシンで JobCenter を使う場合には、ホスト ID が重複しないこと。
たとえば、UNIX のマネージャマシンから複数の Windows のサーバマシンへ単位ジョブの転送を行う場合などで、ホスト ID が重複していると正常に動作できません。ローカルサイトとクラスタサイト間でも重複することはできません。
- ◆ 設定後にホスト ID を変更しないように最初に運用ルールを決めておくこと。
各マシンは別マシンのホスト ID も保持しています。この各マシンの持つホスト ID の情報が一致していないと予期せぬ動作になる場合があります。設定後にホスト ID を変更した場合、一部のマシンに更新漏れなどがあると誤動作の原因になります。

2.2 LicenseManagerをインストールする

LicenseManager はライセンス管理用製品です。
JobCenter は、LicenseManager を使用してライセンスチェックを行います。
JobCenter 製品をインストールする前に、LicenseManager をインストールしてください。
ただし OS が HP-UX(IPF)、AIX、64bit 版 Windows(IA-64(IPF)、x64/EM64T/AMD64)の場合は、
LicenseManager のインストールは不要です。コードワードの登録のみ行って下さい。
詳細については、「LicenseManager リリースメモ」を参照してください。

- 2.2.1 HP-UX版
- 2.2.2 Solaris版
- 2.2.3 Linux版
- 2.2.4 AIX版
- 2.2.5 Windows版

2.2.1 HP-UX版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-1 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量 (HP-UX 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

- LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。
- <1> LicenseManager の確認
 - <2> LicenseManager のインストール

次に、LicenseManager のインストール作業の具体的な手順を説明します。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
<LicenseManager パッケージがすでにインストールされている場合>

```
# NECWSLM 1.3.00 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.3.00 WebSAM LicenseManager
```

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。
<LicenseManager パッケージがインストールされていない場合>

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/".
```

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、/tmp 配下にパッケージファイルをコピーしたと仮定します。
ファイル名は、/tmp/WSLM とします。

- ② 次のコマンドによりインストールを実行します。

```
root> swinstall -s /tmp/WSLM NECWSLM ↵
```

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければ、インストールは正常に終了します。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては、HP-UX の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root > swlist NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
# NECWSLM 1.3.00 WebSAM LicenseManager
NECWSLM.NECWSNLESD 1.3.00 WebSAM LicenseManager
```

2.2.2 Solaris版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-2 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量 (Solaris 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	3 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

次に、LicenseManager のインストール作業の具体的な手順を説明します。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> pkginfo NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
<LicenseManager がすでにインストールされている場合>

```
application NECWSLM WebSAM License Manager
```

- 次のように表示された場合は、引き続き LicenseManager のインストールを行います。
<LicenseManager がインストールされていない場合>

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、/tmp 配下にパッケージファイルをコピーしたと仮定します。
ファイル名は、/tmp/WSLM とします。

- ② 次のコマンドによりインストールを実行します。

```
root> pkgadd -d /tmp/WSLM NECWSLM ↵
```

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければ、インストールは正常に終了しています。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関しては、Solaris の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root > pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- STATUS: の項が次の表示になっていればインストールは正常に終了しています。

```
completely installed
```

2.2.3 Linux版

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-3 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量 (Linux 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
/opt : 1 MB	1 MB
/etc : 1 MB	
/usr : 1 MB	

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

次に、LicenseManager のインストール作業の具体的な手順を説明します。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManager をインストールする必要はありません。
<LicenseManager がすでにインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.3.00-1
```

- 何も表示されなかった場合、LicenseManager はインストールされていません。引き続き LicenseManager のインストールを行います。

<2> LicenseManagerのインストール

LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、/tmp 配下にパッケージファイルをコピーしたと仮定します。
ファイル名は、/tmp/WSLM とします。

- ② 次のコマンドによりインストールを実行します。

```
root> rpm -i /tmp/WSLM ↵
```

- 次のメッセージが表示されれば、インストールは正常に終了しています。

```
***** now installing *****  
Installation was successful.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、対処を行ってください。

インストーラのエラーに関してはLinuxの製品マニュアル等を参照してください。

- ③ 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root > rpm -qa NECWSLM ↵
```

- 次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
NECWSLM-1.3.00-1
```

2.2.4 AIX版

LicenseManagerのインストールは必要ありません。

「2.3 コードワードを登録する」の.lockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

2.2.5 Windows版

32bit 版 Windows について、LicenseManager をインストールします。

64bit版Windows(IA-64(IPF)、x64/EM64T/AMD64)の場合はLicenseManagerのインストールは不要です。

「[2.3 コードワードを登録する](#)」のlockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

(1) 必要メモリ容量

LicenseManager をインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表 2-4 LicenseManager のインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量 (Windows 版)

固定ディスク容量	メモリ容量
1 MB	2 MB

(2) LicenseManagerのインストール

LicenseManager をインストールするには、次に示す手順で行います。

<1> LicenseManager の確認

<2> LicenseManager のインストール

次に、LicenseManager のインストール作業の具体的な手順を説明します。

<1> LicenseManagerの確認

- ① マシンを立ち上げ、Administrator 権限のあるユーザでログインします。
- ② LicenseManager のインストールを行う前に、LicenseManager がすでにインストールされていないかどうかを確認します。
- ③ Windows の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] でコントロールパネルを表示させます。
[プログラムの追加と削除]画面で[WebSAM LicenseManager(MainPart)]のエントリがないことを確認します。

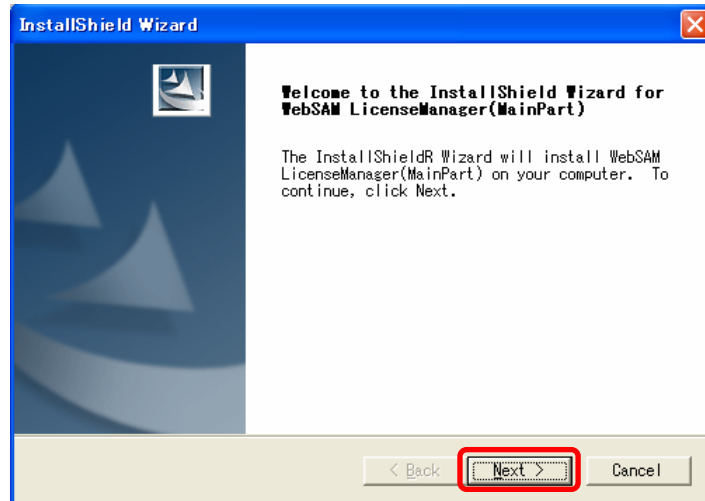
LicenseManager がすでに存在していた場合は、インストールの必要はありません。

<2> LicenseManager(MainPart)のインストール

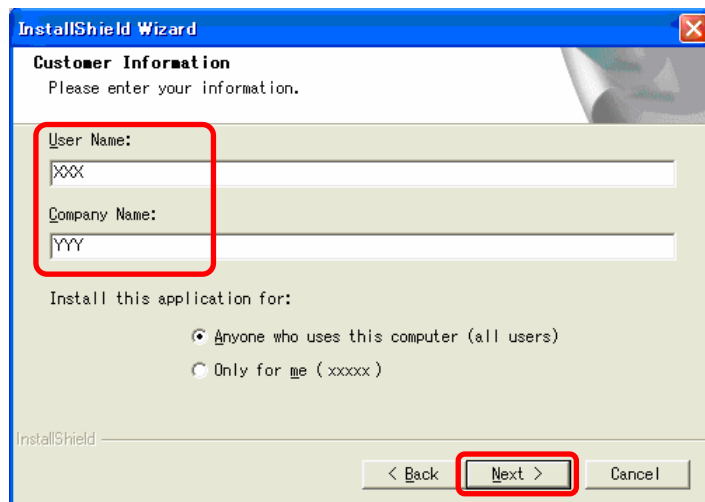
LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従って、インストールしてください。

- ① JobCenter のメディアから、パッケージファイルをローカルディスク上にコピーします。
ここでは、C:\¥setup.exe にコピーします。
- ② コピーした setup.exe ファイルを実行し、LicenseManager のインストーラを起動します。

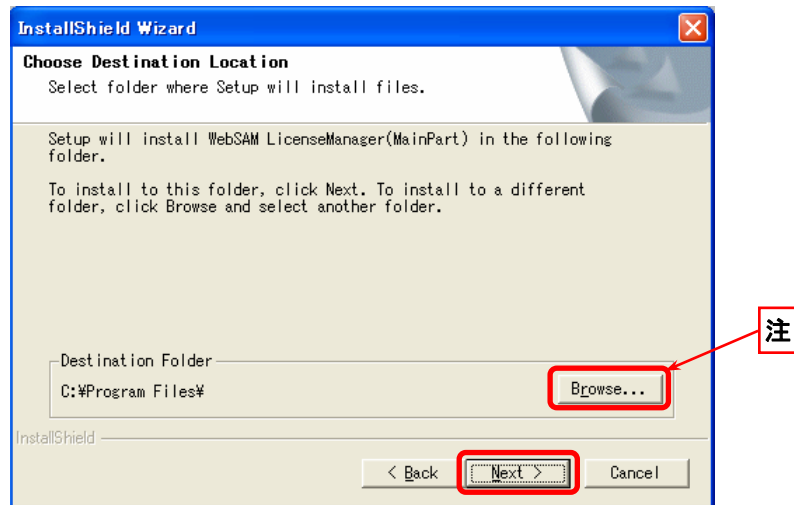
- ③ 次のような画面が表示されますので、[Next>] ボタンをクリックします。



- ④ 「Customer Information」画面が表示されます。「User Name」と「Company Name」にはシステムに登録されている既定値が表示されます。必要に応じて変更し、[Next>] ボタンをクリックします。

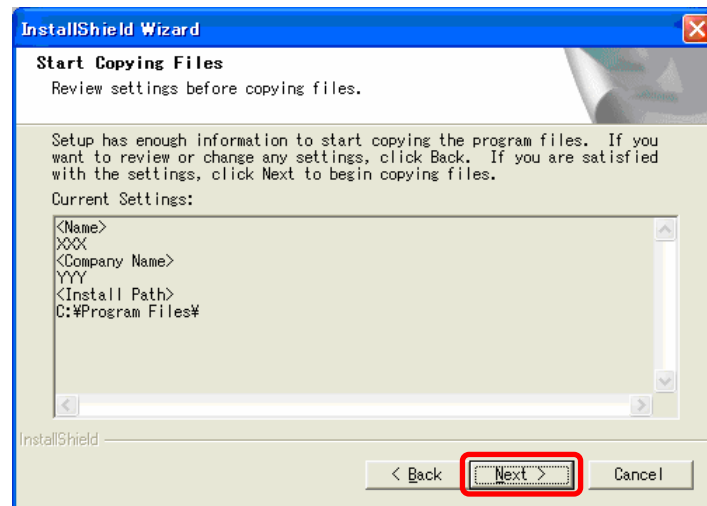


- ⑤ 「Choose Destination Location」画面が表示されます。
インストール先のフォルダを決定後、[Next>] ボタンをクリックします。

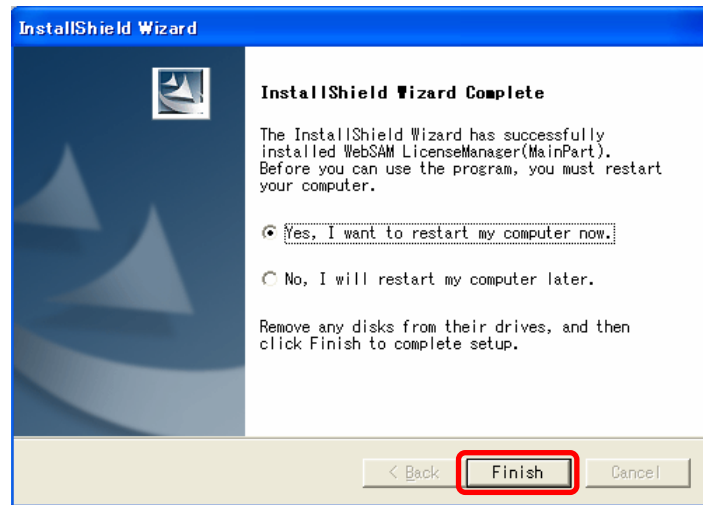


注 既定のインストール先フォルダを変更する場合には、[Browse...] ボタンをクリックして、表示された画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

- ⑥ 確認画面が表示されますので、ここまで設定した内容を確認します。
設定が完了したら [Next>] ボタンをクリックします。設定内容を変更する場合は、[< Back] ボタンをクリックし各項目の画面まで戻って設定をやり直します。



- ⑦ すべてのインストールが完了すると次の画面が表示されます。
[Finish] ボタンをクリックしてシステムを再起動します。



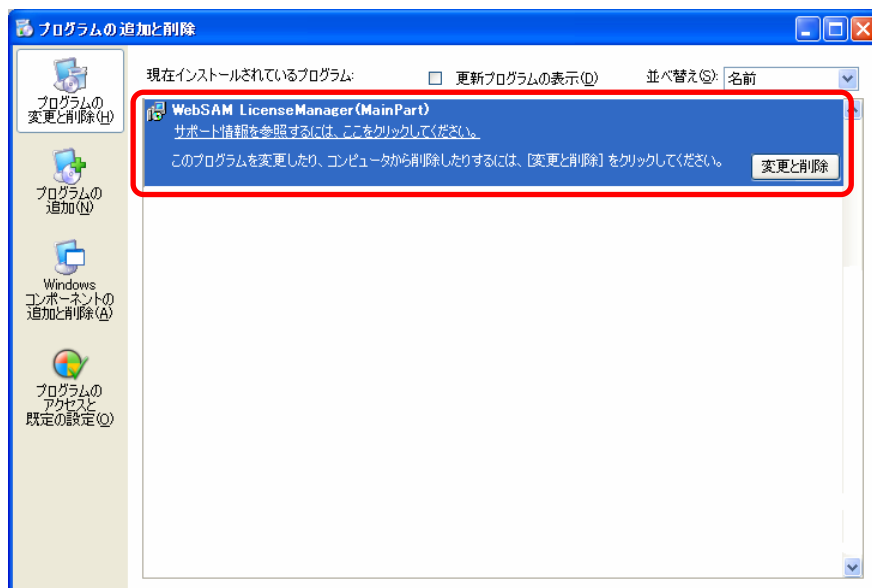
備考 すぐに再起動を実施しない場合は、「No, I will restart...」のラジオボタンをアクティブにし、[Finish] ボタンをクリックします。



JobCenter プロダクトをインストールする以前に、必ずシステムを再起動してください。

ここまでで、「LicenseManager(Main Part)」のインストール作業は完了です。
次に、インストールが正常に終了したか確認します。

- ⑧ Windows の [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行します。
次の画面例のように「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリが表示されていれば正常に終了しています。



2.3 コードワードを登録する

LicenseManager のインストールが終了したあとで、JobCenter をセットアップする前に、ライセンス解除のためのコードワードの登録を行います。

2.3.1 コードワードの登録作業

2.3.2 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

2.3.1 コードワードの登録作業

次のファイルに対して、コードワードの登録を行います。

- UNIX の場合 : /etc/opt/wsnlesd/.lockinfo
- Windows の場合 : %InstallDerectory%¥wsnlesd¥etc¥opt¥wsnlesd¥lockinfo

備考 %InstallDerectory%は LicenseManager をインストールしたディレクトリを示します。デフォルトは OS をインストールしたドライブの¥Program Files です。

OS が HP-UX 11i v2 for Itanium, AIX および 64bit 版 Windows(IPF, x64)の場合は、LicenseManager のインストールは不要ですので、コードワードの登録のみ行います。

.lockinfo (または lockinfo) ファイルはテキスト形式で新規に作成してください。

UNIX の場合は存在しないサブディレクトリを上記の通りに作成します。

Windows の場合は暫定的に C:¥Program Files¥wsnlesd¥etc¥opt¥wsnlesd¥lockinfo として作成してください。

それぞれの.lockinfo (lockinfo) ファイルに「型番 コードワード」の形式で登録します。次の例のように、型番とコードワードの間は 1 個以上のスペースまたはタブで区切ってください。

[.lockinfo (lockinfo) ファイルへの登録例]

```
UQ4322-H0C4A1 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
UQ4370-H0C1B1 u4v%daE6VNGKk2VdrS50yQwuofQCbb0#lSUVdqv4Pi8z
UQ4343-H0C1A1 Ses3s1VedNUSshcoJkYR46MjqHDTKpdj#dQXZEvtMvrxz
... ..
```

備考 コードワードの登録を行わない場合でも、お試し期間の 60 日間は JobCenter を使用することが可能です。お試し期間を過ぎると、JobCenter の再起動ができなくなるので注意してください。

コードワードを登録したあと、次のコマンドでライセンスロックが正しく解除されているかどうかを確認します。

- UNIX の場合 : /opt/wsnlesd/bin/wsnlesd -p 型番
- Windows の場合 : %InstallDerectory%¥wsnlesd¥bin¥wsnlesd -p 型番

備考 OS が HP-UX(IPF)、AIX、64bit 版 Windows(IA-64(IPF)、x64/EM64T/AMD64)の場合は、確認作業は不要です。LicenseManager 自体をインストールしないため、コードワードの正常性チェックの方法はありません。JobCenter が正常に起動し、動作していれば問題ありません。

なお将来的に実装が変更される可能性がありますので、必ず上記の手順に従って所定の位置に.lockinfo(または lockinfo)ファイルを作成し、発行されたコードワードをミスのないよう転記して登録しておいてください。

コマンドの実行結果は次のように表示されます。

表 2-5 wsnlesd -p 型番 コマンドの実行結果

表 示	登録結果
型番 “”	正常
Error	異常
TRIAL	お試し期間中

「Error」が表示された場合、コードワードが正しく登録されていません。その型番についてのコードワードの登録状況を再度確認して、コードワードを登録してください。また、「TRIAL」と表示された場合、お試し期間以後は現在のライセンスは無効となります。

2.3.2 LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

LicenseManager インストール後、次のようなメッセージが syslog（Windows の場合はイベントログ）に出力される場合があります。

- UNIX の場合
日付 時刻 ホスト名 wsnlesd: The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD. 注¹
- Windows の場合
The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD.

注 1. 「型番-*」の記述は、例えば「UW0312-H2NA00」といった製品型番の「-」よりも前の記載部分を示しています。メッセージには「UW0312-*」などと表示されます。

上記メッセージは「型番-*」の製品がお試し期間に入っていることおよびその有効期限を示すメッセージです。これらは、コードワードが登録されていない JobCenter 製品の型番ごとに出力され、当該型番「型番-*」のコードワードが正しく登録されていれば出力されません。

ライセンス登録後に上記メッセージが出力される場合、出力されたメッセージの型番部分を確認し、.lockinfo (lockinfo) ファイルに登録したコードワードの型番に該当するかどうかを確認してください。

◆ 登録済みの型番について上記メッセージが出力された場合

コードワードが正しく設定されていない可能性がありますので、再度コードワードの登録状態を確認してください。

◆ 出力されたすべてのメッセージの「型番-*」が、登録したコードワードの型番に該当しない場合

メッセージは無視してかまいません。登録されたコードワードにより、ライセンスは解除されます。このメッセージは、メッセージ中に明示された有効期限が過ぎると出力されなくなります。

.lockinfo (lockinfo) ファイルに次のコードワードが登録されている場合の例を示します。

(例) 登録されている型番

```
UW0312-H2NA00 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmLG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
```

次のようなメッセージが syslog に出力されます。

```
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4321-* is invalidated  
on 2005/04/30.  
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4322-* is invalidated  
on 2005/04/30.
```

しかし、出力されたメッセージは登録した「UW0312-*」以外の型番に関するものであるため、このメッセージは無視してかまいません。「UW0312-*」についてはライセンス解除されているため、JobCenter は問題なく起動します。

2.4 JobCenter MG/SVをインストールする

JobCenter MG と SV は共通のパッケージです。以降「JobCenter MG/SV」と表記し、インストール方法を解説します。



一台のマシンで MG と SV の両方の役割を果たす場合でも、インストールは一回だけ行ってください。ただしパスワードの登録は JobCenter MG と JobCenter SV の 2 つ分必要です。

- 2.4.1 HP-UX版
- 2.4.2 Solaris版
- 2.4.3 Linux版
- 2.4.4 AIX版
- 2.4.5 Windows版

2.4.1 HP-UX版

HP-UX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア（CD-ROM）をセットします。

JobCenter メディアは RockRidge 形式で作成されていますので、HP-UX で CD-ROM をマウントする際は、次のように mount でマウントします。

- root ユーザでログインし、ioscan コマンドでデバイス名の確認を行ってください。

```
/usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk
```

- JobCenter メディア（CD-ROM）をセットし、次のコマンドを実行します。

```
/usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point>
```

マウントポイント（<mount-point>）およびデバイス名（<device-name>）はシステムに合わせて変更してください。

- ② 次のコマンドを実行してインストールします。

```
/usr/sbin/swinstall -s <HP_PRODUCT_PATH> NECJCpkg
```

備考 <HP_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ（RELMEMO）を参照してください。

- ③ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のメッセージを表示します。インストールは正常に終了しています。

```
* Execution succeeded.
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーについては HP-UX の製品マニュアル等をご覧ください。

- ④ インストール正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ（UNIX版）」へ進んでください。

2.4.2 Solaris版

Solaris 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

- ① JobCenter メディア（CD-ROM）をセットします。

- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
pkgadd -d <SUN_PRODUCT_PATH>
```

備考 <SUN_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ（RELMEMO）を参照してください。

- ③ コマンド実行後、システムは JobCenter がインストール可能であることを次のように表示し、入力待ちの状態となります。

```
The following packages are available:

  1  NECJCpkg      JobCenter MG/SV package for Solaris
                        (Solaris(Sparc)) XXXX

Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]:
```

備考 XXXX には JobCenter のバージョンが表示されます。

- ④ パッケージのインストールを行う場合には、「1」を選択し、リターンキーを押します。
以降はインストーラの指示に従ってインストールを行います。

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては Solaris の製品マニュアル等を参照してください。

- ⑤ インストール正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ（UNIX版）」へ進んでください。

2.4.3 Linux版

Linux 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。

JobCenter R12.7 から RedHat 版のパッケージと Miracle 版のパッケージが共通化されました。Miracle Linux の場合は直接<2>の手順に進んでください。

<1> 「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストール(RHEL4 とそれ以前のEM64T システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、EM64T システム上で JobCenter を動作させる場合は、RedHat OS にあらかじめ「互換アーキテクチャのサポート」パッケージを追加インストールしておく必要があります。

OS インストール時に「カスタム」を選択して「互換アーキテクチャのサポート」(の、すべてのパッケージ)を事前にインストールしていることを確認してください。

<2> IA-32 Execution Layerと 32-bit Compatibility Layerのインストール (RHEL4 とそれ以前の IA-64 システムのみ)

JobCenter は 32 ビットアプリケーションであるため、IA-64 システム (Itanium ベースのシステム) 上で JobCenter を動作させる場合は、32 ビットアプリケーションのランタイム環境のセットアップが必要です。

このため、次の手順に従って IA-32 Execution Layer と「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストールを行ってください。

• Red Hat での IA-32 Execution Layer のインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux Extras の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で「Misc」を選択して、「進む」ボタンをクリックします。これにより、IA-32 Execution Layer (ia32el パッケージと ksh パッケージ) がインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

• Red Hat での「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストール

- ① X 端末で、当該システムに root 権限でログインします。
- ② Red Hat Enterprise Linux 32-bit Compatibility Layer の CD-ROM をセットし、mount します。
- ③ CD-ROM 上の autorun を実行します。
- ④ GUI 画面から、「進む」を選択し、「パッケージの追加と削除」画面で、「互換アーキテクチャのサポート」を選択し(すべてのパッケージをインストールします)、「進む」ボタンをクリックします。これにより互換パッケージがインストールされます。
- ⑤ umount 後に CD-ROM を取り出します。

<3> JobCenterのインストール

- ① JobCenter メディア（CD-ROM）をセットします。
- ② 次のコマンドを実行してインストールを行います。

◆ 32 ビットおよび EM64T の場合

```
root> /bin/rpm -i <LINUX_PRODUCT_PATH>
```

◆ IA64 の場合

```
root> /bin/rpm -i --define "_autorelocate_path %{nil}"  
<LINUX_PRODUCT_PATH>
```

備考 <LINUX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ（RELMEMO）を参照してください。

コマンド実行後、エラーメッセージが表示されなければインストールは完了です。
エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては Linux の製品マニュアル等を参照してください。

- ③ インストール正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ（UNIX版）」へ進んでください。

2.4.4 AIX版

AIX 版の JobCenter MG/SV のインストール手順を示します。



AIX 環境では同一製品のインストール済みパッケージの確認が自動では行われないため、上書きインストールされる可能性があります。必ず事前に、他の JobCenter MG/SV がインストールされていないことを確認してください。

- ① JobCenter メディア（CD-ROM）をセットします。
- ② 次のコマンドで、メディア内の AIX 版パッケージを適当なディレクトリに展開します。

```
> cd <パッケージを展開するディレクトリ>  
> tar xvf <AIX_PRODUCT_PATH>
```

備考 <AIX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenter メディアのリリースメモ（RELMEMO）を参照してください。

- ③ 2つのファイルが展開されます。

```
.toc  
NECJCpkg.XXXX.bff
```

備考 XXXX には JobCenter のバージョンが表示されます。

- ④ ③で解凍されたディレクトリ上で、次のコマンドを実行してインストールします。

```
> /usr/sbin/installp -a -d. NECJCpkg
```

- ⑤ コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のようなメッセージを表示します。

```
NECJCpkg.base XXXX USR APPLY SUCCESS
```

エラーなどによりインストールが失敗した場合には、インストーラのログファイルを参照し、インストールに失敗した理由を取り除いてください。

インストーラのエラーに関しては AIX の製品マニュアル等を参照してください。

- ⑥ インストールが正常終了後、「3. 実行環境のセットアップ（UNIX版）」へ進んでください。

2.4.5 Windows版

Windows 版の JobCenter MG のインストール手順を示します。

JobCenter MG と JobCenter SV は同一のパッケージになっています。また、インストール手順も同じです。JobCenter SV のインストールを行う場合も、JobCenter MG のインストール手順に従ってください。Windows 版の場合はインストールとセットアップは一連の流れで行われます。

インストールを始める前に、次に挙げる注意事項を確認してください。

◆ 一般的な注意事項

- ◆ インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。
- ◆ インストール先のマシンの Windows に、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてください。
- ◆ ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルの Administrators グループに所属するユーザで Windows にログインしてから作業を行ってください。
- ◆ JobCenter 管理者をドメインユーザとする場合は、ローカルの Administrators グループに所属するそのドメインユーザで Windows にログインしてから作業を行ってください。
その場合、同じアカウント名綴りのローカルユーザを JobCenter グループに所属させることはできません。
- ◆ ドメインコントローラ(PDC/BDC)に JobCenter をインストールする場合は、セットアップの「ユーザタイプ」で「ローカル」「ドメイン」は選択できません。(ドメイン固定)

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。(既定値は C:¥JobCenter¥SV)

◆ 環境変数に関する注意事項

環境変数 NQS_SITE が設定されていると、正常にセットアップが実行できません。

事前に(例えばシステム環境変数などで)NQS_SITE の設定の有無を確認して、設定されていた場合は削除してからインストールしてください。

◆ 権限に関する注意事項

JobCenter が正常に動作するためには、JobCenter 管理者ユーザやその他の JobCenter 利用者ユーザに対して必要な権限が与えられている必要があります。これらの権限は[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー] および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。

通常は特に問題なく付与されていますが、対象システムのセキュリティポリシーによっては付与されていないこともあります。以下に必要な権限を記載しますので、これらの権限が JobCenter 利用者ユーザに付与されるようにしてください。

- (1) JobCenter 利用者ユーザに必要な権限(通常、OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBatchLogonRight	バッチ ジョブとしてログオン
SeInteractiveLogonRight	ローカル ログオン

- (2) (1)に加えて JobCenter 管理者に必要な権限(OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBackupPrivilege	ファイルとディレクトリのバックアップ
SeChangeNotifyPrivilege	走査チェックのバイパス
SeCreateGlobalPrivilege	グローバル オブジェクトの作成
SeDebugPrivilege	プログラムのデバッグ
SeIncreaseQuotaPrivilege	プロセスのメモリ クォータの増加
SeNetworkLogonRight	ネットワーク経由でコンピュータへアクセス
SeRestorePrivilege	ファイルとディレクトリの復元
SeSecurityPrivilege	監査とセキュリティ ログの管理
SeSystemEnvironmentPrivilege	ファームウェア環境値の修
SeTakeOwnershipPrivilege	ファイルとその他のオブジェクトの所有権の取得

備考 上記のうち SeCreateGlobalPrivilege については設定確認コマンド(jc_check、jc_getinfo)のチェック対象になっていませんが、JobCenter 管理者に必要な権限ですので、必ず付与されるようにしてください。

- (3) (1)(2)に加えて JobCenter 管理者に必要な権限(JobCenter セットアップ時に自動的に付与)

権 限	意 味
SeAssignPrimaryTokenPrivilege	プロセス レベル トークンの置き換え
SeServiceLogonRight	サービスとしてログオン
SeTcbPrivilege	オペレーティング システムの一部として機能

- (4) Administrators グループに付与されることが望ましい権限(OS 側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeCreatePagefilePrivilege	ページ ファイルの作成
SeIncreaseBasePriorityPrivilege	スケジューリング優先順位の繰り上げ
SeLoadDriverPrivilege	デバイス ドライバのロードとアンロード
SeProfileSingleProcessPrivilege	単一プロセスのプロファイル
SeRemoteShutdownPrivilege	リモート コンピュータからの強制シャットダウン
SeShutdownPrivilege	システムのシャットダウン
SeSystemProfilePrivilege	システム パフォーマンスのプロファイル
SeSystemtimePrivilege	システム時刻の変更

備考 これらの権限がなくても JobCenter 自身の動作に影響を与えることはありません。ただし、JobCenter のジョブから起動するコマンドが Administrators のデフォルト権限を必要とする場合に影響がありますので、付与されることを推奨します。

その他、Windows 版に関する JobCenter ユーザとしての要件については「2.1.1 注意事項の事前確認」の「Windows の場合の注意事項」を参照してください。

◆ Windows XP Professional マシンに JobCenter をインストールする際の注意事項

次の①と②の条件を必ず同時に満たしてください。

- ① Windows XP Professional へのログインユーザが“Administrators”グループに所属していること。
- ② 次の (a) ～ (c) のどれか 1 つが設定されていること。

(a) 対象の Windows XP Professional マシンが「ドメイン環境」である。

(b) Windows XP Professional へのログインユーザに次の設定がされている。

ポリシー「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」のセキュリティの設定が「クラシック：ローカルユーザをローカルユーザとして認証する」である。

備考 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] – [ローカル ポリシー] – [セキュリティ オプション] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

(c) 「guest」アカウントにポリシー「ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する」の権限が付与されていない。

備考 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、[secpol.msc] を実行します。[ローカル セキュリティ設定] ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより、[セキュリティの設定] – [ローカル ポリシー] – [ユーザ権利の割り当て] のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

◆ JobCenter (SV/NT) R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合の注意事項

JobCenter (SV/NT) R4.1 以前のバージョンをインストールしている場合は、あらかじめアンインストールする必要があります。

JobCenter (SV/NT) R4.1 以前のバージョンのアンインストールは、インストールしたときの CD-ROM をマシンの CD-ROM 装置にセットし、Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:\PRODUCT\WIN\JB_SV\DISK1\SVUNINST.EXE

備考 ここでは、CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

◆ MSCS クラスタ環境の場合の注意事項

MSCS クラスタ環境で前のバージョンをアンインストールして新しいバージョンをインストールする際は、特別な手順で行う必要があります。詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- MSCS 環境におけるバージョンアップ手順
- MSCS 環境におけるバージョンアップ手順 (IPF 版)

備考 上記マニュアルは保守契約に基づき提供されます。必要な場合は、保守契約の後にお知らせする NEC サポートポータルからダウンロード、または NEC カスタマーサポートセンターにお問い合わせのうえ、入手してください。

◆ クラスタ環境を構築予定の場合の注意事項

JobCenter 管理者ユーザ以外のユーザでのジョブ運用を行う場合には基本的にドメイン環境が必要となります。(クラスタ環境ではユーザを識別する UID を各ノード上で同じ数値にする必要がありますが、ドメイン環境でないと一般的に同じ数値にならないため。)

JobCenter 管理者ユーザは UID が必ず 0 になるため、JobCenter 管理者ユーザのみで運用する場合はドメイン環境は必須ではありません。

◆ Windows Server 2008 IPF 環境にインストールする場合の注意事項

Windows Server 2008 IPF 環境は JobCenter R12.7.2 からのサポートとなりますので、R12.7.1(または R12.7)の JobCenter をインストールした後に、R12.7.2 以降のパッチを適用してください。

JobCenter のインストール方法は、通常インストール (JobCenter を新規にインストールする場合) と JobCenter がすでにインストールされている場合の 2 通りがあります。

次の (1) または (2) で示す手順でインストールを行います。

(1) 通常インストール (JobCenterを新規にインストールする場合)

- ① JobCenter メディア (CD-ROM) をセットし、次に挙げるファイルをいったんローカルディレクトリにコピーしてください。

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥JAPANESE¥NECJCpkg-12.x-SV.exe ^{注1}

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥JAPANESE¥NECJCpkg-12.x-SV-ipf.exe ^{注1 注2}

または

Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥JAPANESE¥NECJCpkg-12.x-SV-x64.exe ^{注1 注3}

注 1. <12.x>は、インストールするパッケージのバージョンに読み替えてください。

注 2. Windows Server 2003 for Itanium-based Systems 用の 64 ビットネイティブバイナリ

注 3. Windows Server 2003 x64 Editions 用の 64 ビットネイティブバイナリ

- ② ファイルは自己解凍形式になっていますので、実行して展開します。

- ③ 展開されたディレクトリ内の SV_setup_IA32.exe, SV_setup_IPF.exe または SV_setup_EM64T.exe を実行します。

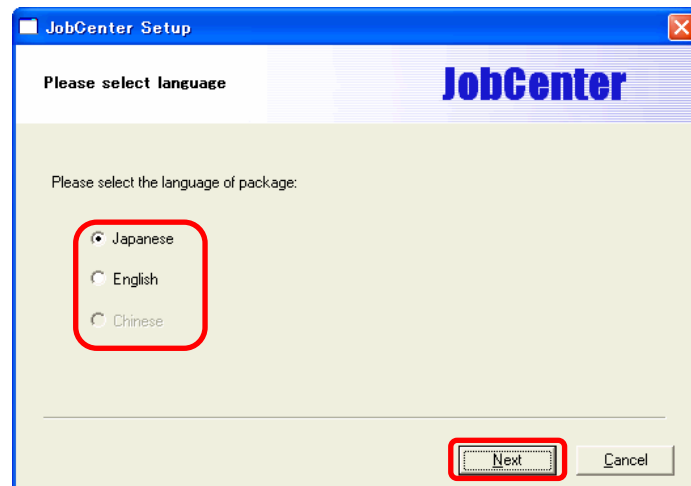
以降は、画面の指示に従ってください。



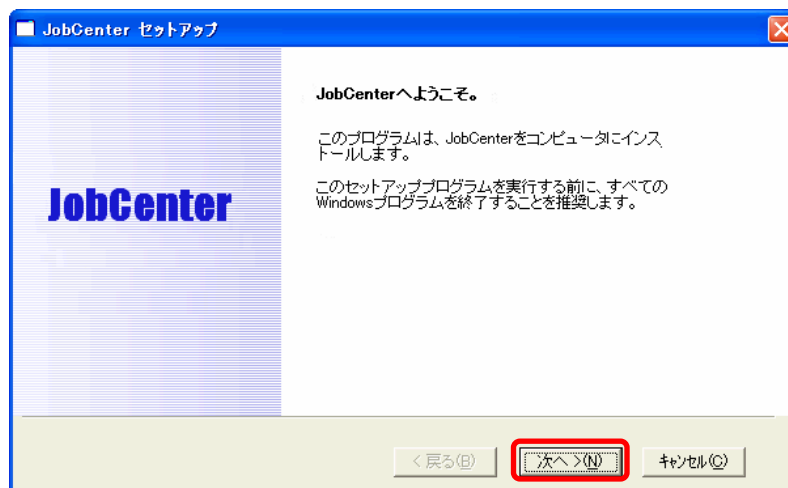
JobCenter がすでにインストールされている場合

通常インストールと上書きインストールの選択ダイアログボックスが開きます。「2.4.5 (2) JobCenterがすでにインストールされている場合」を参照してください。

- ④ インストールに用いる言語を選択して、[Next] ボタンをクリックします。

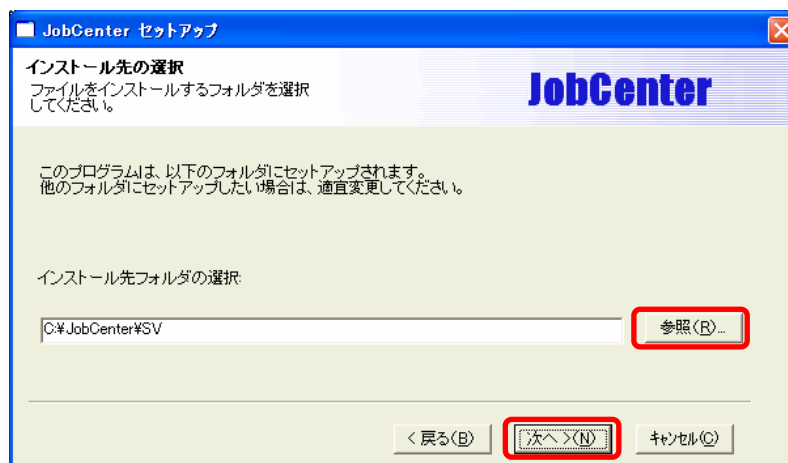


- ⑤ [次へ>(N)] ボタンをクリックします。



- ⑥ インストール先のフォルダを選択し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。

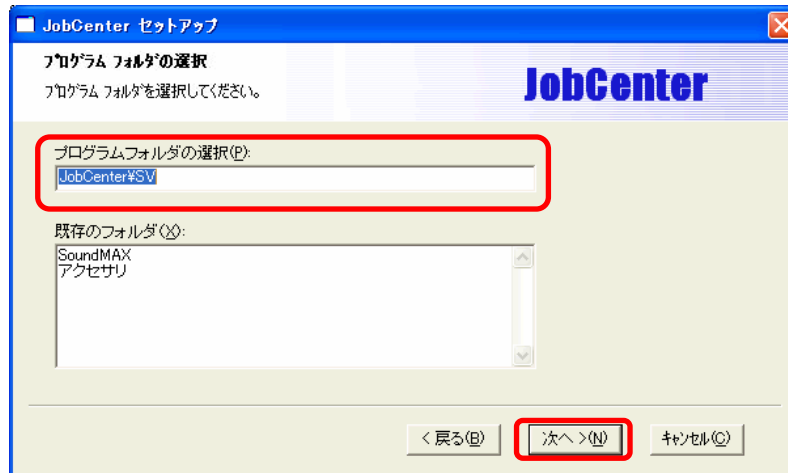
インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照(R)...] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



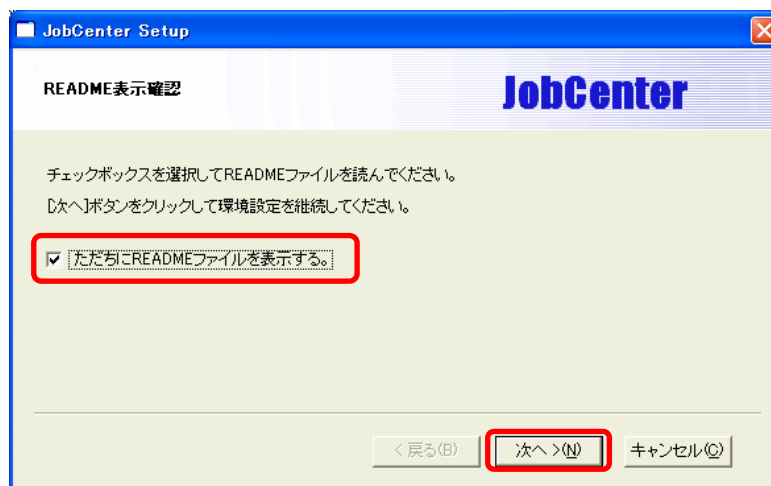
⚠ インストールフォルダ名に空白、タブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」

などの特殊文字は使用できません。

- ⑦ プログラムフォルダを選択し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。

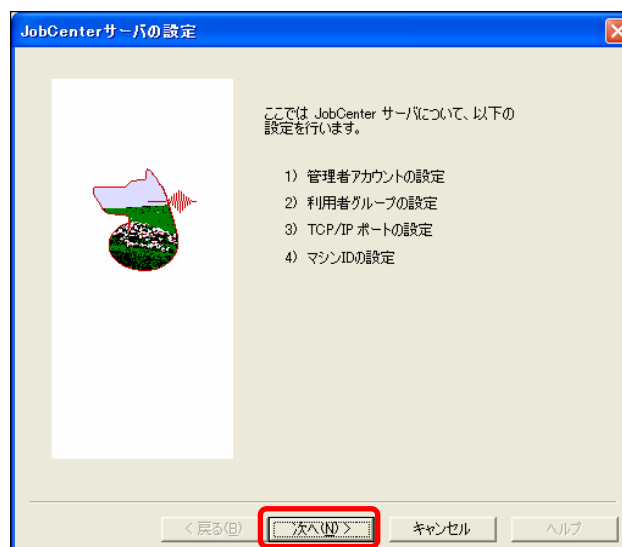


- ⑧ README ファイルを参照しない場合は、チェックを外してから、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。



インストールに続いて、初期設定を行います。

- ⑨ [次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ⑩ JobCenter で使用する管理者ユーザの登録を行います。

管理者アカウント、管理者パスワード（2 箇所）を入力し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。存在しないアカウントを入力した場合は、新規アカウントが作成されます。

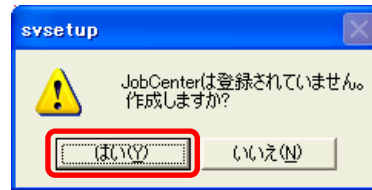
 ユーザ名の最大長は 15 バイトです。

備考 ドメイン環境にインストールする場合は、JobCenter 管理者ユーザをローカルユーザで登録するか、ドメインのユーザで登録するかを選択できます。

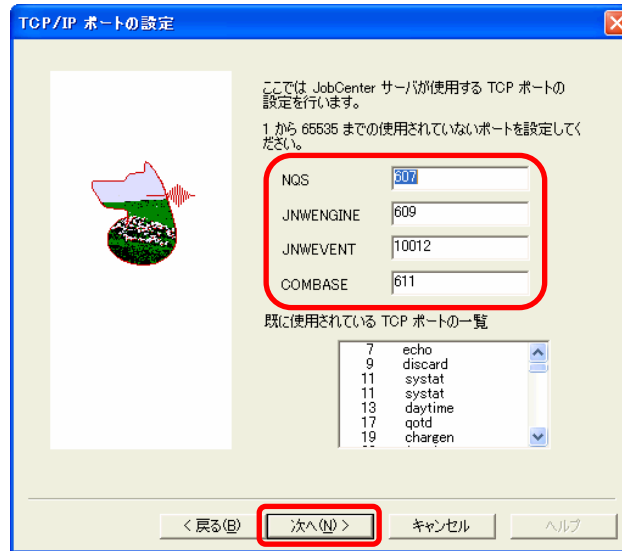
- ⑪ JobCenter の利用者グループを登録します。

利用者グループにグループ名を入力し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。存在しないグループ名を入力した場合は、新規にグループが作成されます。

- ⑫ 新規利用グループを作成した場合は、svsetup の画面が表示されます。
[はい(Y)] ボタンをクリックします。



- ⑬ JobCenter が使用する TCP/IP のポートを指定して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



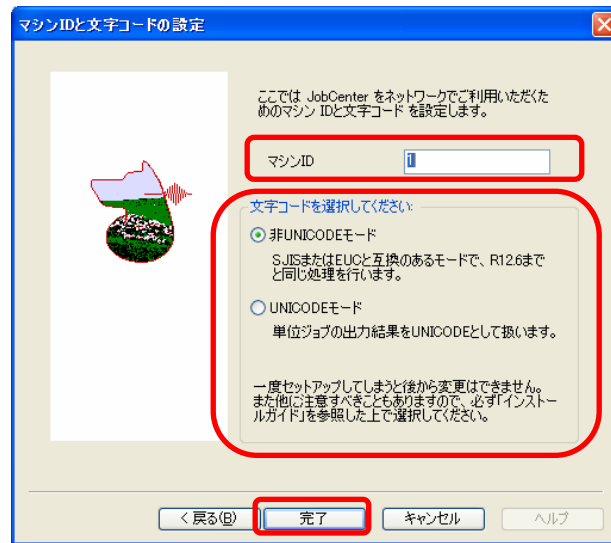
-  **JNWEVENT を除くポート番号には、700 番以下の使用していない番号を入力してください。また、他のサーバを管理したり、ジョブを転送したりする場合には、サーバ間でも同じ番号を設定してください。**

備考 TCP ポートのデフォルト値は次のとおりです。設定画面の「既に使用されている TCP ポートの一覧」の欄を参照し、重複していないか確認してください。

NQS : 607
JNWENGINE : 609
JNWEVENT : 10012
COMBASE : 611

- ⑭ NQS のマシン ID (ホスト ID) の入力と文字コードの選択をします。マシン ID は、JobCenter がマシンを識別するための ID です。文字コードは UNICODE を利用しない場合には非 UNICODE モードを、UNICODE を利用する場合には UNICODE モードを選択します。

設定後、[完了] ボタンをクリックします。



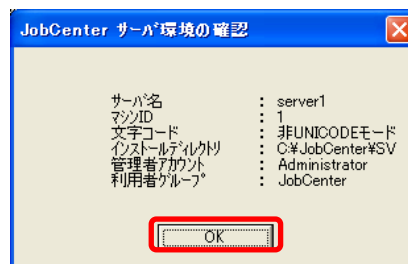
JobCenter がインストールされているマシン間で、マシン ID が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。

文字コードの設定は一度設定すると後から変更はできません。

UNICODEモード使用時の注意事項については「2.1.1 注意事項の事前確認」を参照してください。

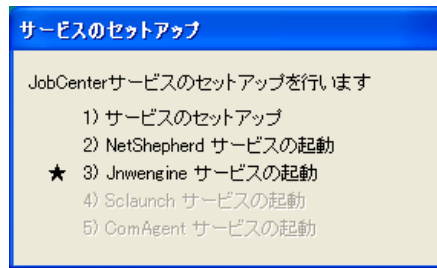
- ⑮ JobCenter サーバ環境の確認画面が表示されます。

設定内容を確認し、[OK] ボタンをクリックしてください。

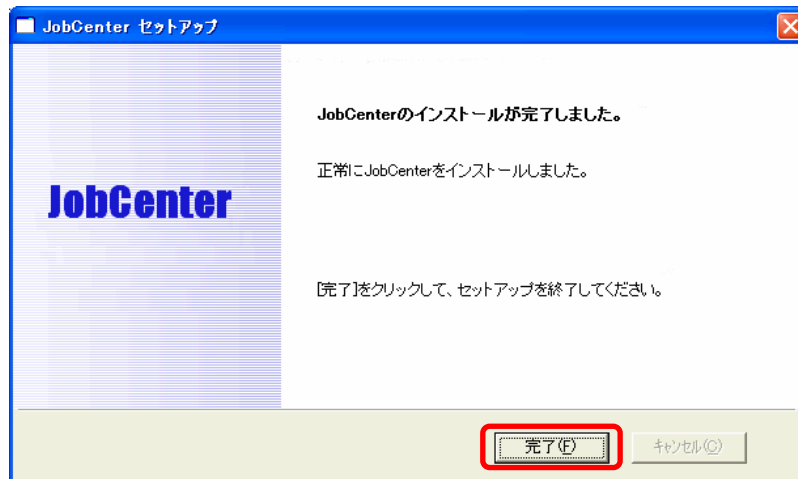


備考 ドメイン環境にインストールした場合は、ユーザ追加処理に数分かかることがあります
が異常ではありません。

- ⑩ サービスのセットアップが開始します。



- ⑪ [完了] ボタンをクリックします。



- ⑫ JobCenter(MG/SV)のインストールが完了後、情報採取コマンド「<インストールディレクトリ>%jnwexe¥lib¥jc_getinfo」を JobCenter 管理者アカウントで実行します。

採取されたデータに含まれる「right.info」ファイルをテキストエディタで開き、JobCenter 管理者に必要な権限が割り当てられている事([NG]の項目がないこと)を確認してください。

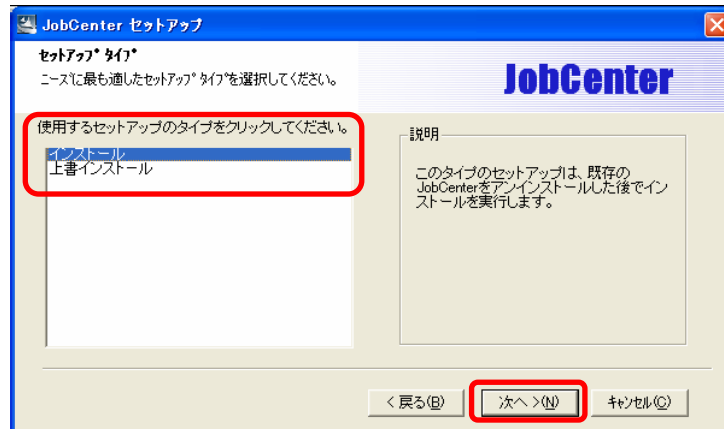
[NG]の項目がある場合は、NG になっている権限を JobCenter 管理者に付与してください。

これらの権限は通常、[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます（ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー]および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます）。

備考 jc_getinfo の詳細についてはマニュアル「JobCenter コマンドリファレンス」を参照してください。

(2) JobCenterがすでにインストールされている場合

- ① すでに JobCenter がインストールされている場合は、次のダイアログが表示されます。
セットアップのタイプを選択し、[次へ>(N)] ボタンをクリックします。



- 「インストール」を選択した場合

既存の JobCenter をアンインストールしてから新たに JobCenter のインストールを行います。NQS 関連のキューの情報は引き継がれません。

「2.4.5 (1) 通常インストール (JobCenterを新規にインストールする場合)」の手順に従ってインストールしてください。

- 「上書インストール」を選択した場合

現在の設定を引き継いでインストールが行われます。このインストール方法では、NQS 関連のキューの情報も引き継がれます。

上書きインストールの前に、%InstallDirectory%\%ag¥lib¥comagent.acf を変更している場合は、同ファイルをバックアップしてください。インストールを実行後、バックアップしたファイルを新規にインストールされたファイルに上書きします。

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。



「インストール」と「上書インストール」のどちらを選択しても、ユーザが作成したジョブネットワークの情報は引き継がれます。

備考 上記インストール方法は、旧バージョンが JobCenter (SV) R12.3 以降の場合です。それ以外の場合は、「5.2.1 バージョンアップ」の (1) または (2) を参照してください。セットアップ画面は、[キャンセル (C)] ボタンをクリックし、いったん閉じてください。

2.5 JobCenter CL/Winをインストールする

JobCenter CL/Win（ビューワ）は、JobCenter MG（マネージャ）および JobCenter SV（サーバ）に接続する Windows GUI です。

インストールとセットアップは一連の流れで行われます。



JobCenter CL/Win のインストールを行う前に現在動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。ランタイムライブラリのインストールを円滑に行うために必要です。

2.5.1 インストールの開始

2.5.2 セットアップ画面

2.5.1 インストールの開始

JobCenter メディア（CD-ROM）をセットします。

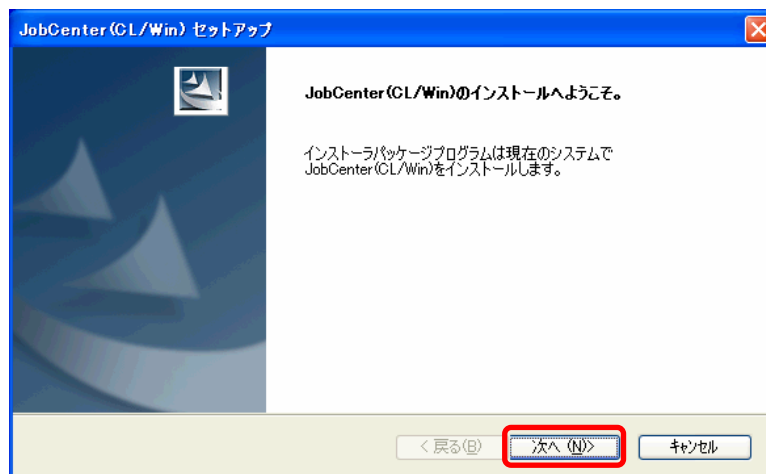
Windows の [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して、[OK] ボタンを選択します。

- Q:¥PACKAGE¥JB¥WINDOWS¥JAPANESE¥NECJCpkg-12.x-CL.exe

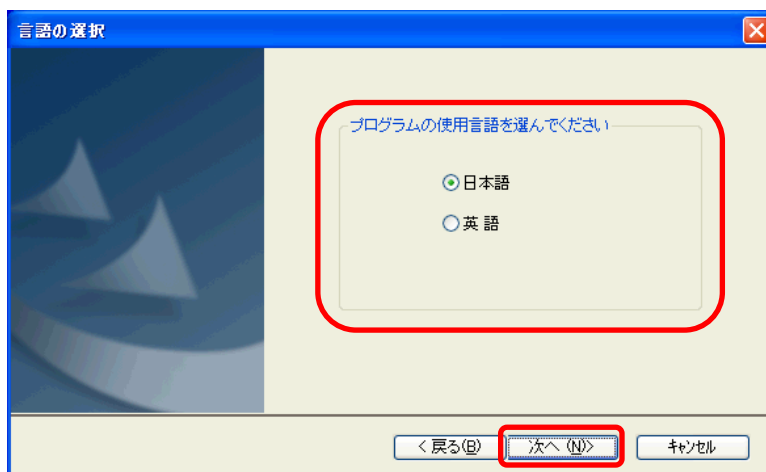
備考 <12.x>は、インストールするパッケージのバージョンに読み替えてください。またここでは、CD-ROM ドライブを Q: ドライブとして説明します。CD-ROM ドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

2.5.2 セットアップ画面

- ① セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ② JobCenter CL/Win で使用する言語（日本語または英語）を選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



- ③ JobCenter CL/Win を利用する際に、次のいずれかのモードで利用するかを選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

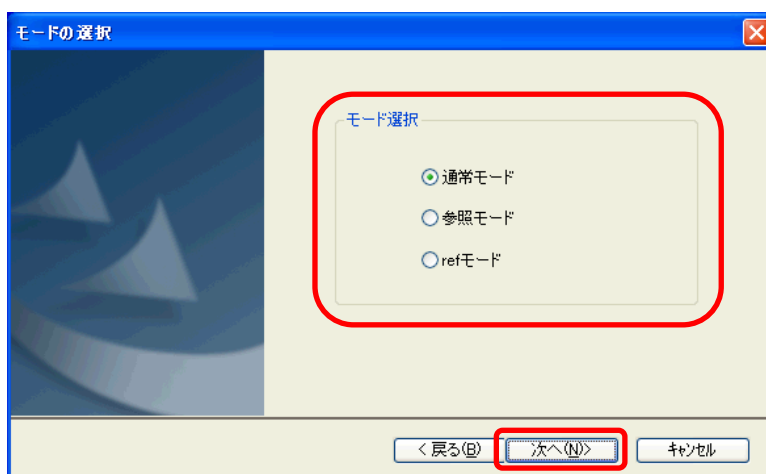


表 2-6 登録モードと操作可能範囲

登録モード	ジョブネットワークの作成、削除、変更	ジョブネットワークやジョブの制御
通常モード	○	○
参照モード	×	○
ref モード	×	×

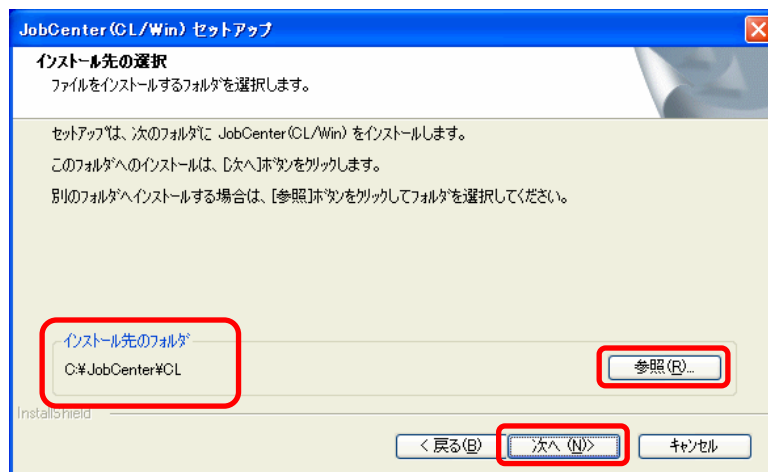
備考 ○：操作可能、×：操作不可能

- ④ JobCenter CL/Win をインストールするフォルダを選択します。

インストール先のフォルダの初期値は、「C:\JobCenter\CL」となっています。

インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照(R)...] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

インストール先を決定後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。



インストールフォルダ名に空白、タブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。

- ⑤ JobCenter CL/Win の起動直後によく利用するウィンドウを開くショートカットを選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

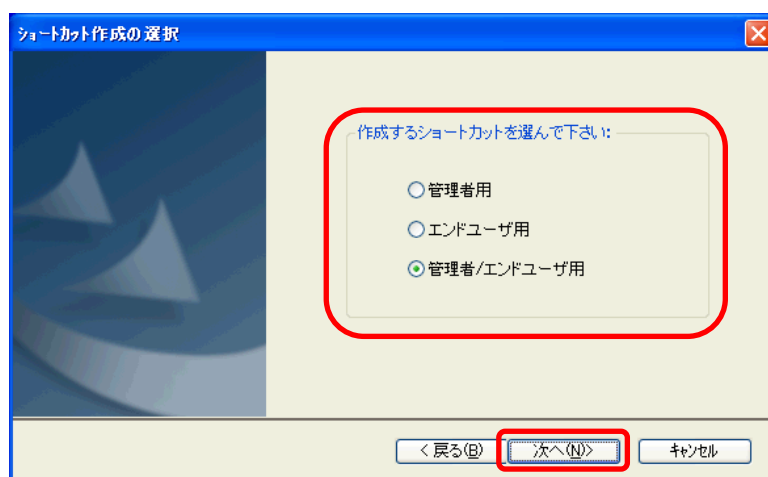


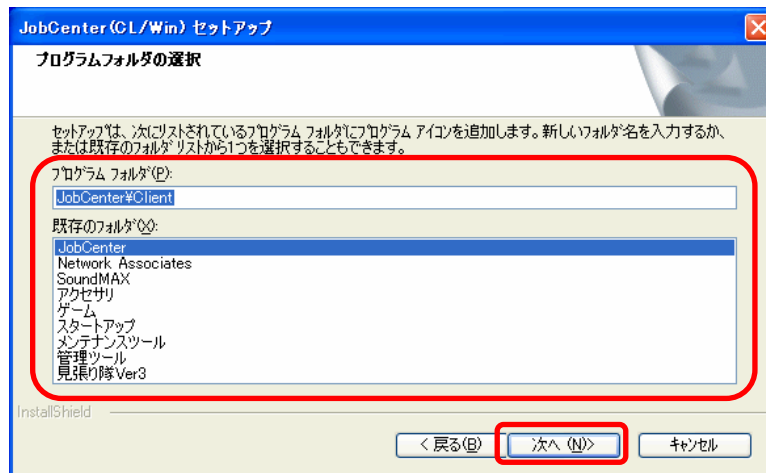
表 2-7 利用するウィンドウと作成されるショートカット

利用するウィンドウ	作成されるショートカット
管理者用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ユーザメニュー] ウィンドウが開くようなショートカットが作成されます。
管理者/エンドユーザ用	JobCenter CL/Win 起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウ、および [ユーザメニュー] ウィンドウを開く 2 種類のショートカットが作成されます。

⑥ JobCenter CL/Win のショートカットを格納するフォルダを選択します。

フォルダは、[既存のフォルダ(X)] から選択するか、もしくは [プログラムフォルダ(P)] に任意のフォルダ名を入力します。

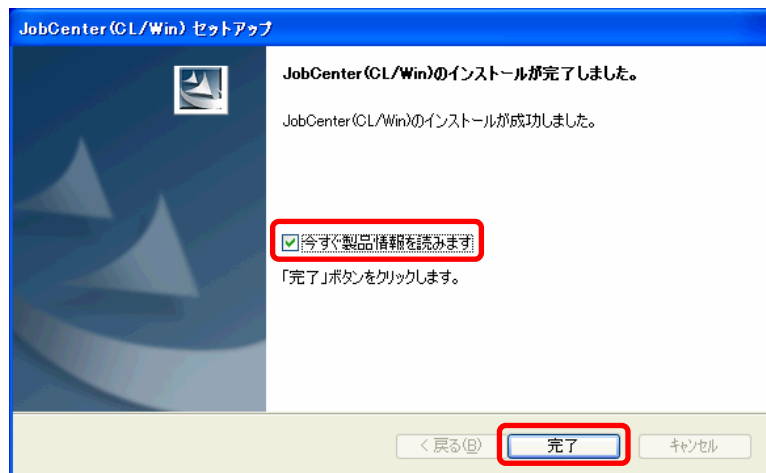
フォルダを決めて、[次へ(N)>] ボタンをクリックすると、プログラムのコピーが開始されます。



⑦ プログラムのコピーが正常に終了すると、セットアップが完了します。

[完了] ボタンをクリックし、セットアップを完了します。

「今すぐ製品情報を読みます」をチェックしてから [完了] ボタンをクリックすると、製品情報が参照できます。



3. 実行環境のセットアップ (UNIX版)

JobCenter の実行環境のセットアップ (UNIX 版) を行います。

なお、Windows 版の場合はインストール時にセットアップも一連の流れで行われます。

(1) JobCenterのセットアップ

<1> nssetup (セットアップ用のコマンド) を実行する

```
/opt/netshep/nssetup
```



HP-UX を高信頼性モードで運用していて、かつ以下の<4>で設定する JobCenter 管理者ユーザ(nsumsmgr)がまだ OS に追加されていない状態で上記の nssetup コマンドを実行すると、ユーザ作成に失敗して nssetup コマンドが正常に終了できなくなる場合があります。HP-UX を高信頼性モードで運用している環境では、事前に nsumsmgr ユーザを useradd コマンドで追加してから nssetup を実行してください。

ただし Linux の場合は、次のようになります。

```
/usr/local/netshep/nssetup
```

もし、バージョンアップ等で以前の JobCenter のスプールディレクトリが存在する場合は以下のメッセージが出力されます(存在しない場合は何も出力されません)。

```
[Warning] JobCenter spool directory(/usr/spool/nqs) is already exist.  
Do you use the old spool directory? [y/n](default: n)
```

既存のディレクトリを使用する場合は y を選択します(12.6 までと同じ動作です)。n を選択した場合は spool ディレクトリを消去して、新規のセットアップを開始します。spool ディレクトリの内容に関しては、リリースメモの「3.2.3(1) スプールディレクトリ (/usr/spool/nqs)」をご確認ください。

<2> JobCenterのホストIDを設定する

このコマンドを実行すると、ディレクトリが自動的に作成され、NQS ホスト ID の入力待ちの状態となります。

```
Setting NQS ホスト ID.  
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)=
```

ここで、あらかじめ決めておいた NQS ホスト ID を入力します。

(例)

```
1234 ↵
```



JobCenter がインストールされているマシン間で、ホスト ID (マシン ID) が重複しないようにしてください。デフォルトで「1」が設定されています。



このあと JobCenter が使用するポートを/etc/services に追加します。607/tcp、611/tcp、10012/tcp のエントリが無い場合、次のようにポート番号を追加したことを表示します。

```
Add entry of nqs service port to /etc/services.
```

Add entry of jccombase service port to /etc/services.
Add entry of jcevent service port to /etc/services.

- ◆ すでに別のアプリケーションで上記のポートを利用している場合には、ポート番号をデフォルト値から変更して登録してください。

特に Linux の場合は jccombase サービスの 611/tcp が既存の npmp-gui サービスの番号と競合するため、npmp-gui サービスのエントリをコメントアウトするか、jccombase のサービス番号を変更して対処してください。

なお、ここでポート番号を変更した場合には、連携する他のホストの/etc/services の記述も同様に変更してください。

- ◆ jccombase サービスに割り当てる番号を変更する場合、CL/Win が動作する Windows 機で、次のレジストリキーのポート番号を変更してください(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。

[HKEY_LOCAL_MACHINE] – [SOFTWARE] – [NEC] –

[JobCenter(CL/Win)] – [R12.x] – [ComBasePort] の値

<3> JobCenterを使用する言語環境を選択する

このマシンで起動する GUI およびジョブネットワークは、ここで選択した文字コード以外は使用できなくなります。

Select language code for JobCenter.
0 - English
1 - EUC
2 - Shift-JIS (MS-kanji)
3 - Chinese (GB18030)
4 - JP.UTF-8
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4)

スクリプト内で環境変数 LANG の設定値を変更したり、スクリプト実行用シェルの LANG 初期値が異なっていた場合、文字化けが発生する可能性がありますので注意してください（デフォルトで選択されている文字コードは、環境変数 LANG の値によって異なります）。

(例)

1 ↵



同一運用環境で、異なる言語環境でセットアップした JobCenter MG/SV を混在して使用する場合、いくつか注意すべき事項があります。また、追加の設定が必要になる場合があります。「JobCenter 環境構築ガイド 9. 日本語環境での文字コード変換」を参照してください。Windows 版 MG/SV と混在する場合は「JobCenter 環境構築ガイド 8. 異なる言語間における接続設定」も参照してください。



ここで選択した文字コードでセットアップした後にジョブネットワークやスケジュール等を作成した場合、(全てアルファベットと数字を用いて設定した場合を除き)他の言語環境の JobCenter への設定データの移行はできませんので、言語環境の選択には十分注意してください。



JP.UTF-8 (UNICODE環境) を使用する場合、いくつかの注意事項がありますので「2.1.1

注意事項の事前確認」を参照の上で設定を行ってください。

<4> UMS環境を設定する

UMS 環境とは JobCenter システムを管理するための環境です。ここでは JobCenter 管理者である nsumsmgr アカウントを新たに自動的に作成するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます(ユーザ名 nsumsmgr は固定であり、変えられません)。ただし、すでに nsumsmgr アカウントが存在する場合は、このメッセージは表示されずスキップされます。

```
Start NQS daemon.
making UMS environment..
JobCenter needs new user "nsumsmgr".
Do you want to create user "nsumsmgr" automatically ? ([y]/n)
```

- 管理者ユーザを作成する場合

y を入力しリターンキーを押し、セットアップを続けます。

システムの状態が調べられ、次のように出力されます (ユーザ ID などはマシンごとに異なる場合があります)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:
(1)USER ID : 738 (nsumsmgr)
(2)GROUP ID : 1 (other)
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr
SHELL : /sbin/sh
COMMENT : JobCenter manager
OK? (y/1/2/3/q) :
```

上から順に、(1)ユーザID、(2)グループID、(3)ホームディレクトリ、シェル、コメントと並んでいます。このうち、変更できるのは、ユーザID、グループID、ホームディレクトリの3つです。

修正したい箇所の () 内の数字を入力してリターンキーを押すことで、修正モードに入ります。次の「<5>管理者ユーザの設定を変更する」に進んでください。

現在の設定でよければ、y を入力してリターンキーを押して、「<6>パスワードを設定する」に進んでください。

何らかの理由で作業を中断する場合は、q を入力してリターンキーを押してください。



作業を中断した場合は、次の「管理者ユーザの設定を自動で行わない場合」に準じて、後で必ず nsumsmgr アカウントを作成してパスワードを設定し、mkumseenvsh による環境設定を行ってください。

- 管理者ユーザの設定を自動で行わない場合

n を入力しリターンキーを押します。

NIS 運用されている環境にインストールする場合や、ログインシェルを/sbin/sh 以外のものを指定したい等の理由により管理者ユーザの設定を自動で行わない場合には、こちらを選択してください。次のメッセージが表示されてインストール (セットアップ) は終了となります。

```
You must create new user nsumsmgr manually,  
And execute "/usr/lib/nqs/gui/bin/mkumsenvsh" .
```



ここで管理者の設定を行わなかった場合には、インストール後に必ず nsumsmgr アカウントの作成とパスワード設定、および /usr/lib/nqs/gui/bin/mkumsenvsh の実行を行ってください。

<5> 管理者ユーザの設定を変更する

• ユーザ ID の変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :1
```

ここに、1 を入力してリターンキーを押すと、次のようにユーザ ID をたずねるメッセージが表示されます。

```
Set USER ID: 500
```

設定したいユーザ ID を入れると、そのユーザ ID がすでに使用されていないかを調べます。すでに使用されていれば、次のメッセージが出力され、もう一度別のユーザ ID を入力するように求められます。

```
USER ID: 500 is already in use.  
Set USER ID:
```

入力したユーザ ID に問題なければ、次の画面に戻ります（ここでは、ユーザ ID を 738 から 501 に変更しています）。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:  
(1)USER ID : 501 (nsumsmgr)  
(2)GROUP ID : 1 (other)  
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr  
SHELL : /sbin/sh  
COMMENT : JobCenter manager  
OK? (y/1/2/3/q) :
```

• グループ ID の変更

前の画面（ユーザ ID 変更の完了画面）で 2 を入力します。

```
OK? (y/1/2/3/q) :2
```

リターンキー押すことでグループ ID の修正モードに入ります。最初に次のメッセージが表示されます。

```
Possible GROUP ID is following:  
root : 0  
other : 1  
bin : 2  
sys : 3  
.  
.
```


Set GROUP ID:

グループ ID は、存在しているグループ ID にのみ変更できるため、現在設定されているグループ ID のリストがまず表示され、最後にグループ ID の入力を求めるメッセージが出力されます。グループ ID のリストを見て、正しい ID を入力してください。

- ホームディレクトリの変更

OK? (y/1/2/3/q) :3

ユーザ ID 変更の完了画面で 3 を入力して、リターンキー押すことで、設定するディレクトリを次のように聞いてきます。

Set directory:

適切なディレクトリを入力してください。

すでに存在しているディレクトリを入力した場合、次のようなメッセージが表示されます。

Directory "/home/nsumsmgr" exists.

OK? (y/[n]) :y

ここで y を入力してリターンキーを押すと、そのディレクトリに変更することができます。



注意事項

- (3)HOME DIRECTORY に既存のディレクトリを指定した場合は、そのディレクトリ下の全てのファイルとディレクトリの所有者は、管理者ユーザのユーザ ID とグループ ID に変更されます。
- Linux 機や AIX 機では、HOME DIRECTORY を変更した場合、デフォルトのホームディレクトリも作成される場合があります。そのシステムのデフォルトのホームディレクトリを確認し、不要な nsumsmgr ディレクトリが存在する場合は、手動で削除してください。

<6> パスワードを設定する

OK? (y/[n]) :y

画面の(1), (2), (3)項の変更が完了し、y を入力してリターンキーを押すと、パスワードの設定に移ります。次のように表示されたら、新しいパスワードを入力してください。

Set password of "nsumsmgr"

New password:

入力が終了すると、次のように再度パスワードの確認を求めるメッセージが表示されますので、同じパスワードを入力してください。

Re-enter new password:



JobCenter システムの動作には JobCenter 管理者アカウントにパスワードが設定されていることが必須です。パスワードは必ず設定してください。

パスワード設定まで終了すると、ユーザ nsumsmgr のアカウントの設定が終了したことを知

らせるメッセージが表示されます。

```
Complete to create new user "nsumsmgr".
Start making ".rhosts".
Input official host name of UMS machine:
```

<7> .rhostsファイルを設定する

```
Input official host name of UMS machine:
```

.rhosts ファイルに UMS が動作するホスト名（ここではマネージャ(MG)のホスト名）を登録します。MG として使用する予定のホスト名を正式名称で入力してください。エイリアス名(別名)でなく、正式な名称で入力してください。

自マシンが MG の場合、もしくはスタンドアロンで運用する場合は、自マシンで hostname コマンドを実行して表示されるホスト名を指定します。

例えば hostname.domain.co.jp と入力すると、次のような確認のメッセージが表示されます。

```
Host name is "hostname.domain.co.jp". OK? ([y]/n)
```

y を入力してリターンキーを押すと、次に進みます。

n を入力してリターンキーを押すと、ホスト名の再入力ができます。

最後に、NetShepherd 管理者リストにユーザ nsumsmgr を追加登録して管理者ユーザ設定は終了です。

次のメッセージが表示され、セットアップは終了します。

```
Start adding to qmgr.Complete adding to qmgr
```

(2) クラスタサイトを構築する場合に必要な作業

nssetup 実行後はそのままローカルサイトが起動してプロセスが常駐します。もし続けてクラスタサイトの構築(cjcmksite)を実行する場合は、一旦ローカルサイトを停止して daemon.conf にローカルサイトを「サイトモード」で起動するよう local_daemon パラメータを事前に設定する必要があります。

詳細については「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」各章の「ローカルデーモンの設定変更」を参照してください。

(3) BASECenter/SystemManager(MG)を使用する場合

JobCenter MG のセットアップ完了後、SysetemScope のドロップインアイコンの登録のために ssEventD を次の手順で再起動します。

```
> /opt/OV/bin/ovstop ssEventD
> /opt/OV/bin/ovstart ssEventD
```

また、JobCenter MG のパッケージを削除した場合にも、同様に再起動を行います。

(4) AIXでBASECenter/SystemManagerを使用してイベント連携を行う場合

AIX に JobCenter と BASECenter/SystemManager がインストールされている場合、ジョブネットワークイベント送信デモンを置き換える必要があります。

次の手順で行います。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 11.3.1 BASECenter/SystemManager を用いた連携」を参照してください。

- ① JobCenter サービス停止します。

```
/usr/lib/nqs/nqsstop
```

- ② ファイルを退避します。

```
cp -p /usr/lib/nqs/jnwcaster /usr/lib/nqs/jnwcaster.bk
```



BASECenter/SystemManager 以外のイベント連携を行う場合は、jnwcaster ファイルを元に戻す必要があるため、必ずファイルを退避してください。

- ③ ファイルを置換します。

```
cp -p /usr/lib/nqs/jnwcasterBASE /usr/lib/nqs/jnwcaster
```

- ④ JobCenter サービス開始します。

```
/usr/lib/nqs/nqsstart
```

(5) 環境変数TZに関する設定

Linux、Solaris、AIX 版の JobCenter は、セットアップ後、環境変数 TZ に関する設定を行う必要があります。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 13. ジョブ実行時の環境変数の取り扱い」を参照してください。

(6) 日本以外のタイムゾーンで利用 (R12.7.2~のみ対応)

日本以外のタイムゾーンで JobCenter を利用する場合、daemon.conf に「schedule_timezone」パラメータの設定が必要になります。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 5.2.2 UNIX の場合 (4) schedule_timezone」を参照してください。

(7) OSのカーネルパラメータのチューニング

JobCenter で大量のトラックを短時間に生成してジョブリクエストを実行する場合、OS の様々なカーネルパラメータの上限値に抵触する可能性があります。(例えば HP-UX の nproc、maxuprc、nfile、ninode 等)。

「JobCenter 環境構築ガイド」の「システム利用資源」に記載されたリソース使用量を参照して、集中的にジョブリクエストを実行する際に消費するリソースについて、カーネルパラメータのチューニングを行ってください。

4. アンインストール

LicenseManager, JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win のアンインストール方法を説明します。

-
- 4.1 LicenseManagerをアンインストールする
 - 4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする
 - 4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする

4.1 LicenseManagerをアンインストールする

4.1.1 UNIX版

4.1.2 Windows版

4.1.1 UNIX版

LicenseManager と依存関係にあるプロダクトがある場合は先にそれをアンインストールしてください。JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には JobCenter を先にアンインストールしてください。



依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがあります。

ログイン名"root"でログインします。

```
login:root ↵
```

以降の OS ごとの説明では__部分（下線部分）をキーボードから入力してください。

<1> HP-UX版

- ① 次のコマンドを実行します。本パッケージが削除されます。

```
root> swremove NECWSLM ↵
```

コマンドが正常終了したのを確認してください。パッケージの削除は正常に終了しています。

- ② 確認のため次のコマンドを実行します。

```
root> swlist NECWSLM
```

- ③ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/"
```

<2> Solaris版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> pkgrm NECWSLM ↵
```

パッケージの削除実行中に確認を求めるメッセージが表示されますが、いずれも y を入力してください。

- ② 次のメッセージが表示されればパッケージの削除は正常に終了しています。

```
Removal of <NECWSLM> was successful.
```

- ③ 確認のため次のコマンドを実行してください。

```
root> pkginfo NECWSLM
```

- ④ 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

<3> Linux版

- ① 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> rpm -e NECWSLM ↵
```

- ② 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
*****now removing *****  
Uninstallation was successful.
```

4.1.2 Windows版

LicenseManager と依存関係にあるパッケージがある場合は先にそれをアンインストールしてください。
JobCenter も LicenseManager に依存しているので、LicenseManager をアンインストールする場合には
JobCenter を先にアンインストールしてください。



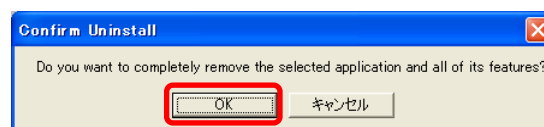
依存関係にあるパッケージを削除せずに LicenseManager をアンインストールした場合、依存関係にある製品の動作に影響を与える恐れがあります。確認をお願いします。

次の手順に従って LicenseManager(MainPart)パッケージの削除を行います。

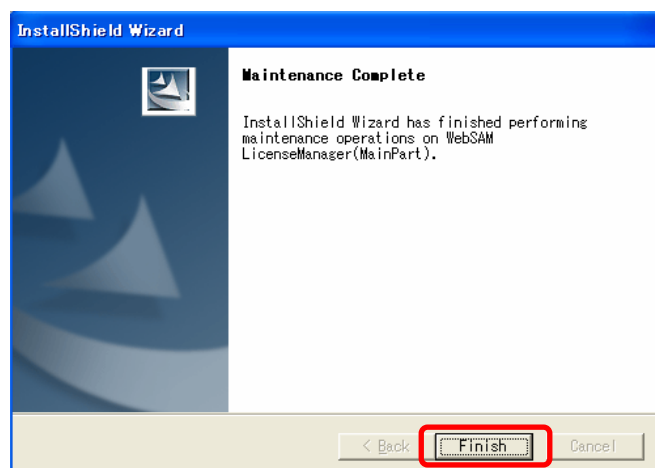
- ① マシンを立ち上げ Administrator 権限のあるユーザでログインしてください。
- ② Windows の [スタート] – [コントロールパネル] で「プログラムの追加と削除」を実行し、次の画面を表示させます。[変更と削除] ボタンをクリックします。



- ③ 次の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックして、パッケージの削除を行います。



- ④ 次の画面が表示されれば、パッケージの削除は完了です。[Finish] ボタンをクリックし、作業を終了します。



4.2 JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする

4.2.1 UNIX版

4.2.2 Windows版

4.2.1 UNIX版

(1) パッケージを削除する

表 4-1を参考に、JobCenterのパッケージを削除してください。

削除するパッケージ名はOS別にJobCenterの種別（MGやSV）によって異なりますので、実際にインストールされているパッケージ名を確認してから削除してください。パッケージ名の確認方法は「6 バージョンの確認方法」の「UNIX版」を参照してください。

表 4-1 削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンド OS 別一覧

OS	削除が必要なパッケージ名	パッケージ削除コマンド
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swremove <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkgrm <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	installp -u <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -e <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	



NECxxxxpt は累積パッチパッケージで、適用しているシステムのみ削除が必要になります。MG や SV パッケージに依存しているので、MG や SV のパッケージよりも先に削除する必要があります。



R12.7 以前の HP-UX および Solaris では、MG マシンには MG と SV の両方のパッケージがインストールされています。その場合 MG パッケージが SV パッケージに依存しているので、MG から先にアンインストールしてください。

(2) NQS関連のデータを削除する

NQS 関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

- /usr/spool/nqs

(3) ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリを削除してください。

- (ユーザのホームディレクトリ) /NetShepEUI

(4) クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリとシンボリックリンクファイルを削除してください。

- <クラスタ DB パス>/nqs
- /usr/spool/nqs/<リロケータブル IP 16 進表記>



クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

4.2.2 Windows版

(1) パッケージを削除する

JobCenter のバージョンによってパッケージの削除方法が異なります。

<1> JobCenter (SV/NT) R4.1 以前 (NetShepherd系) の場合

アンインストール対象の JobCenter (または NetShepherd) のインストールメディアに含まれている、JobCenter のパッケージ削除のコマンド svuninst.exe を実行します。

<2> JobCenter (SV/NT) R7.1~R12.7.xの場合

Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。



Windows OS の「プログラムの追加と削除」からのアンインストールからは、正常にアンインストールできません。必ず上記の手順でアンインストールしてください。

JobCenter SV のアンインストールでは、スタートメニューの [JobCenter] グループを削除できない場合があります。アンインストール後、新たなバージョンをインストールしない場合には、別途スタートメニューの [JobCenter] を削除してください。

(2) NQS関連のデータを削除する

NQS 関連のデータを削除する場合は、次のフォルダを削除してください。

- %InstallDirectory%\etc
- %InstallDirectory%\nmap
- %InstallDirectory%\spool

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。

(3) ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータを削除する場合は、次のフォルダを削除してください。

- %InstallDirectory%\jnwexe\spool\<ユーザ名>

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。

(4) クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のフォルダを削除してください。

- <クラスタ DB>



クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

(5) レジストリ関連のデータを削除する

レジストリ関連のデータを削除する場合は、次の手順を行います。

- ① Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NetShepherd/SV

(6) 環境変数の設定を削除する

JobCenter をクラスタで使用していた場合、環境変数 NQS_SITE の設定の有無を確認し、NQS_SITE が設定されていた場合は削除してください。

4.3 JobCenter CL/Winをアンインストールする

4.3.1 パッケージを削除する

4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

4.3.1 パッケージを削除する

Windows の [スタート] – [コントロールパネル] – [プログラムの追加と削除] を選択し、表示される画面で JobCenter (CL/Win) を選択、[変更と削除] をクリックします。

4.3.2 レジストリ関連のデータを削除する

CL/Win アンインストール後も以下のレジストリ関連データが残っていた場合、次の手順で削除します。
(レジストリにデータが残っていない場合は、削除操作は不要です)

- ① Windows の [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し [OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
- ② レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します(R12.x には対象の JobCenter のバージョンを当てはめてください)。

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥JobCenter (CL/Win) ¥R12.x

5. バージョンアップ

JobCenter のバージョンアップ方法を説明します。

5.1 UNIX版

5.2 Windows版

5.1 UNIX版



注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラックは引き継げません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラックが含まれている場合、上記のとおりトラックは引き継げませんのですぐに削除してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前のJobCenter から R12.5 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。
- ◆ 一度バージョンアップを行うと、バージョンダウンを行ってもユーザデータが互換性を持たず正常に動作しない場合があります。バージョンアップを行う前に必ずエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得して保存するようにしてください。

5.1.1 バージョンアップ

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

5.1.1 バージョンアップ

新しいバージョンの JobCenter をインストールする前に古いバージョンの JobCenter のパッケージを削除する必要があります。

パッケージの削除方法については、「4.2.1 (1) パッケージを削除する」を参照してください。

5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS 関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行います。

- ① JobCenter を停止して、次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

`/usr/spool/nqs/nmap`

`/usr/spool/nqs/private`

- ② 旧バージョンの JobCenter のパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.1 UNIX版」を参照してください
- ③ 新しいバージョンの JobCenter をインストールします。`/opt/netshep/nssetup` を実行したあと、`/usr/lib/nqs/nqsstop` で JobCenter を停止させます。
- ④ あらかじめ①でバックアップしておいた、`/usr/spool/nqs/nmap`、`/usr/spool/nqs/private` 配下のファイルをリストアします。ただし、次のファイルがあった場合は削除します。

- `/usr/spool/nqs/private/root/transfile`
- `/usr/spool/nqs/private/root/control/`（ディレクトリ）※ /配下の全ファイル
- `/usr/spool/nqs/private/root/data/`（ディレクトリ）※ /配下の全ファイル
- `/usr/spool/nqs/private/root/tracking/`配下の全ファイル

注 （ディレクトリ）という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除するという意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

- ⑤ `/usr/lib/nqs/nqsstart` で JobCenter を起動します。
- ⑥ 旧バージョンで JobCenter を利用していた全てのユーザについて、CL/Win で接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合は、ジョブネットワークの定義情報のみ引き継ぐことができます。引き継ぎの方法については、環境構築ガイドの「環境移行」の章を参照してください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。
- ◆ バージョンアップ後に CL/Win による接続を行わないユーザについては、新しいバージョンの MG/SV が JobCenter ユーザとして認識できない場合があります。そのため CL/Win による接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

5.2 Windows版



注意事項

- ◆ アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラックは引き継げません。また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は、「5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ」を参照してください。
- ◆ バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラックが含まれている場合、上記のとおりトラックは引き継げませんのですぐに削除してください。
- ◆ R12.5 以降には共有ジョブネットワークがありません。したがって、R12.4.x 以前の JobCenter から R12.6 以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。
- ◆ MSCS クラスタ環境の場合、前のバージョンを削除して新しいバージョンをインストールする際に、特別な手順で行う必要があります。詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。
- ◆ 前バージョンの JobCenter をクラスタで運用していた場合、アンインストール後に環境変数 NQS_SITE の設定の有無を確認し、設定されていた場合は削除してください。環境変数 NQS_SITE が設定されていると、新しいバージョンの JobCenter のセットアップは正常に実行できません。
- ◆ 一度バージョンアップを行うと、バージョンダウンを行ってもユーザデータが互換性を持たず正常に動作しない場合があります。バージョンアップを行う前に必ずエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得して保存するようにしてください。

5.2.1 バージョンアップ

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

5.2.1 バージョンアップ

旧バージョンの JobCenter がインストールされている場合、新しいバージョンの JobCenter をインストールする前に JobCenter のパッケージを削除する必要があります。

旧バージョンの JobCenter のバージョンによってバージョンアップ方法が異なります。

(1) JobCenter (SV/NT) R4.1 以前 (NetShepherd系) の場合

- ① 旧バージョンの JobCenter (または NetShepherd) のインストールメディアに含まれている JobCenter のパッケージ削除のコマンド svuninst.exe を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

(2) JobCenter (SV/NT) R7.1 以降の場合

- ① Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。
- ② パッケージ削除後、新しいバージョンの JobCenter をインストールします。

(3) JobCenter (SV) R12.2 以降の場合

「2.4.5 (2) JobCenterがすでにインストールされている場合」を参照してバージョンアップを行ってください。

バージョンアップ実行後は、Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [サーバの環境設定] から [ユーザの管理] ボタンをクリックして、[JobCenter ユーザの管理] ダイアログで各ユーザのパスワード欄が「OK」となっているのを確認してください。「Not Set」となっているユーザが存在したら、ユーザ名およびパスワードを再入力してパスワード欄が「OK」となるのを確認してください。



注意事項

- ◆ MSCS クラスタ環境の場合、前のバージョンを削除して新しいバージョンをインストールする際に、特別な手順で行う必要があります。
詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- MSCS 環境におけるバージョンアップ手順
- MSCS 環境におけるバージョンアップ手順 (IPF 版)

備考 上記マニュアルは保守契約に基づき提供されます。必要の際は、NEC サポートポータルからダウンロード、または NEC カスタマーサポートセンターにお問い合わせのうえ、入手してください。

- ◆ 前バージョンの JobCenter をクラスタで運用していた場合、アンインストール後に環境変数 NQS_SITE の設定の有無を確認し、設定されていた場合は削除してください。環境変数 NQS_SITE が設定されていると、新しいバージョンの JobCenter のセットアップは正常に実行できません。

5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS 関連のデータをバージョンアップの前後で引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行います。

- ① コントロールパネルのサービスから、JobCenter 関連のサービスを次の順番で停止させます。

バージョンによっては存在していないサービスもあります。その場合、そのサービスの停止はスキップして次のサービスを停止させてください。

- Sclaunch Service
- Comagent Service
- jnwengine service
- NetShepherd

- ② 次のフォルダ配下のファイルをバックアップします。

- %InstallDirectory%\etc
- %InstallDirectory%\nmap
- %InstallDirectory%\spool\private\root

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。

- ③ 旧バージョンのJobCenterのパッケージを削除します。削除方法に関しては、「4.2.2 Windows版」を参照してください。

- ④ 新しいバージョンの JobCenter をインストール後、マシンを再起動します。

- ⑤ マシン再起動後、コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを次の順番で停止します。

- Sclaunch Service
- Comagent Service
- jnwengine service
- NetShepherd

- ⑥ バックアップしておいたファイルをリストアします。ただし、次のファイルがあった場合は、削除してください。

- %InstallDirectory%\spool\private\root\transfile
- %InstallDirectory%\spool\private\root\control* (ディレクトリ) * *配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\data* (ディレクトリ) * *配下の全ファイル
- %InstallDirectory%\spool\private\root\tracking*配下の全ファイル

注 (ディレクトリ) という表記はそこに存在するすべてのディレクトリを指します。ディレクトリを削除するという意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

備考 %InstallDirectory%は JobCenter 本体のインストールディレクトリを表します。

- ⑦ コントロールパネルのサービスから JobCenter 関連のサービスを次の順番で起動します。

- NetShepherd
- jnwengine service
- Comagent service
- Sclaunch service

⑧ 旧バージョンで JobCenter を利用していた全てのユーザについて、CL/Win で接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenter のバージョンアップ作業は終了です。



注意事項

- ◆ 自ホスト名を変更する場合、ジョブネットワークの定義情報に関しては、jnwopコマンドで変換することによりデータを引き継ぎます。しかしながら、NQS関連の引き継ぎは行うことができません。このような場合は、「5.2.1 バージョンアップ」の手順に従ってバージョンアップしてください。
- ◆ バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。
- ◆ バージョンアップ後に CL/Win による接続を行わないユーザについては、新しいバージョンの MG/SV が JobCenter ユーザとして認識できない場合があります。そのため CL/Win による接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

6. バージョンの確認方法

JobCenter のバージョン確認方法を説明します。

6.1 UNIX版

6.2 Windows版

6.1 UNIX版

UNIX 版の製品のバージョンの確認は、コマンドを用いて行います。

6.1.1 JobCenter MG/SV

6.1.1 JobCenter MG/SV

以下の表に示すコマンドを例にパッケージのバージョンを確認します。
パッチが適用されている環境では、NECSSJBpt のパッケージのバージョン番号を必ず確認するようにしてください。また、12.7 以降と 12.7 以前はパッケージ名が異なりますので注意してください。

表 6-1 JobCenter のバージョン確認コマンド OS 別一覧

OS	確認対象のパッケージ名	バージョン確認コマンド例
HP-UX	NECJCpkg(12.7 以降)	swlist <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Solaris	NECJCpkg(12.7 以降)	pkginfo -l <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBmg(12.7 以前)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
AIX	NECJCpkg(12.7 以降)	lspp -L NECSSJB*
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	
Linux	NECJCpkg(12.7 以降)	rpm -q <pkgname>
	NECJCpt(12.7 以降)	
	NECSSJBag(12.7 以前)	
	NECSSJBpt(12.7 以前)	

6.2 Windows 版

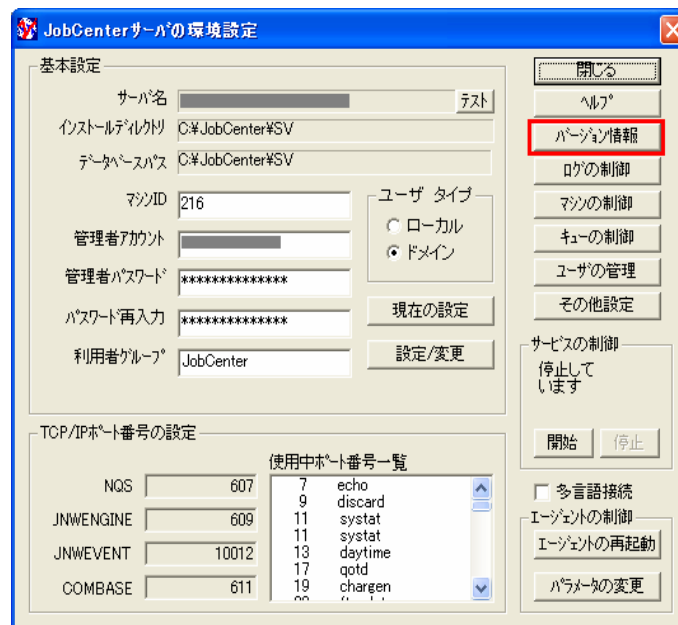
Windows 版の製品のバージョンの確認は、GUI を用いて行います。

6.2.1 JobCenter SV

6.2.2 CL/Win

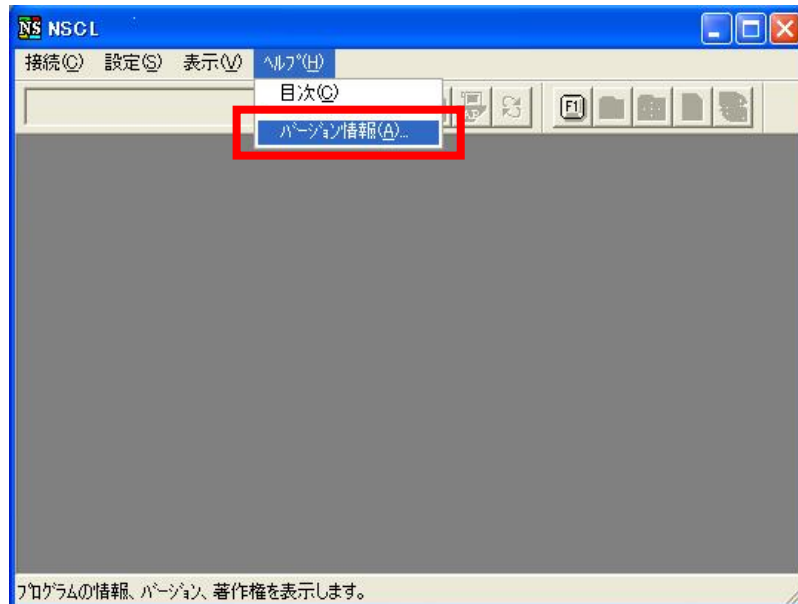
6.2.1 JobCenter SV

- ① Windows の [スタート] から、[すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [サーバの環境設定] を実行します。
- ② [JobCenter サーバの環境設定] ダイアログが表示されたら、[バージョン情報] ボタンを押すことによってバージョン情報を確認することができます。



6.2.2 CL/Win

- ① Windows の [スタート] から、[すべてのプログラム] – [JobCenter] – [Client] – [JobCenter クライアント] を実行します。
- ② CL/Win のウィンドウが表示し、メニューバーから[ヘルプ] – [バージョン情報]を選択することによってバージョン情報を確認することができます。



索引

[.]

.rhosts … 58

[3]

32-bit Compatibility Layer … 35

[A]

AIX … 59

AIX 版 … 25, 37

[B]

BASECenter … 59

BASECenter(MG) … 58

[H]

HP-UX 版 … 20, 33, 61

[I]

IA-32 Execution Layer … 35

IA-64 システム … 35

[J]

JobCenter … 36, 41, 48, 53, 54

JobCenter CL/Win … 49, 68

JobCenter MG … 33, 64

JobCenter SV … 64

JobCenter (SV) R12.2 … 73

JobCenter (SV/NT) R4.1 … 66, 73

JobCenter (SV/NT) R7.1 … 66, 73

[L]

LicenseManager … 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 31, 61

LicenseManager(MainPart) … 26

Linux 版 … 24, 35, 61

[N]

NetShepherd … 66, 73

NQS 関連 … 65, 66, 71, 74

nssetup … 53

[S]

Solaris 版 … 22, 34, 61

[U]

UMS 環境 … 55

UNIX 版 … 53, 61, 64, 70, 78

[W]

Windows 版 … 26, 38, 63, 66, 72

[あ]

アンインストール … 60, 61, 63, 64, 66, 68

イベント連携 … 59

インストール … 8, 9, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 31, 33, 35, 36, 48, 49

[か]

環境変数 … 67

管理者ユーザ … 56

言語環境 … 54

コードワード … 30

コマンド … 53

[さ]

実行環境 … 53

セットアップ … 53

セットアップ画面 … 49

[た]

通常インストール … 41

登録 … 30

[な]

ネットワーク … 9

[は]

バージョンアップ … 69, 71, 73, 77, 78, 79

パスワード … 57

パッケージ … 61, 63, 64, 66, 68

引き継ぎ … 71, 74

ホスト ID … 19

[ま]

メッセージ … 31

メモリ容量 … 20, 22, 24, 26

[や]

ユーザ関連 … 65, 66

[ら]

レジストリ関連 … 66, 68

[わ]

割り当て … 19

発行年月 July 2008

© NEC Corporation 2008